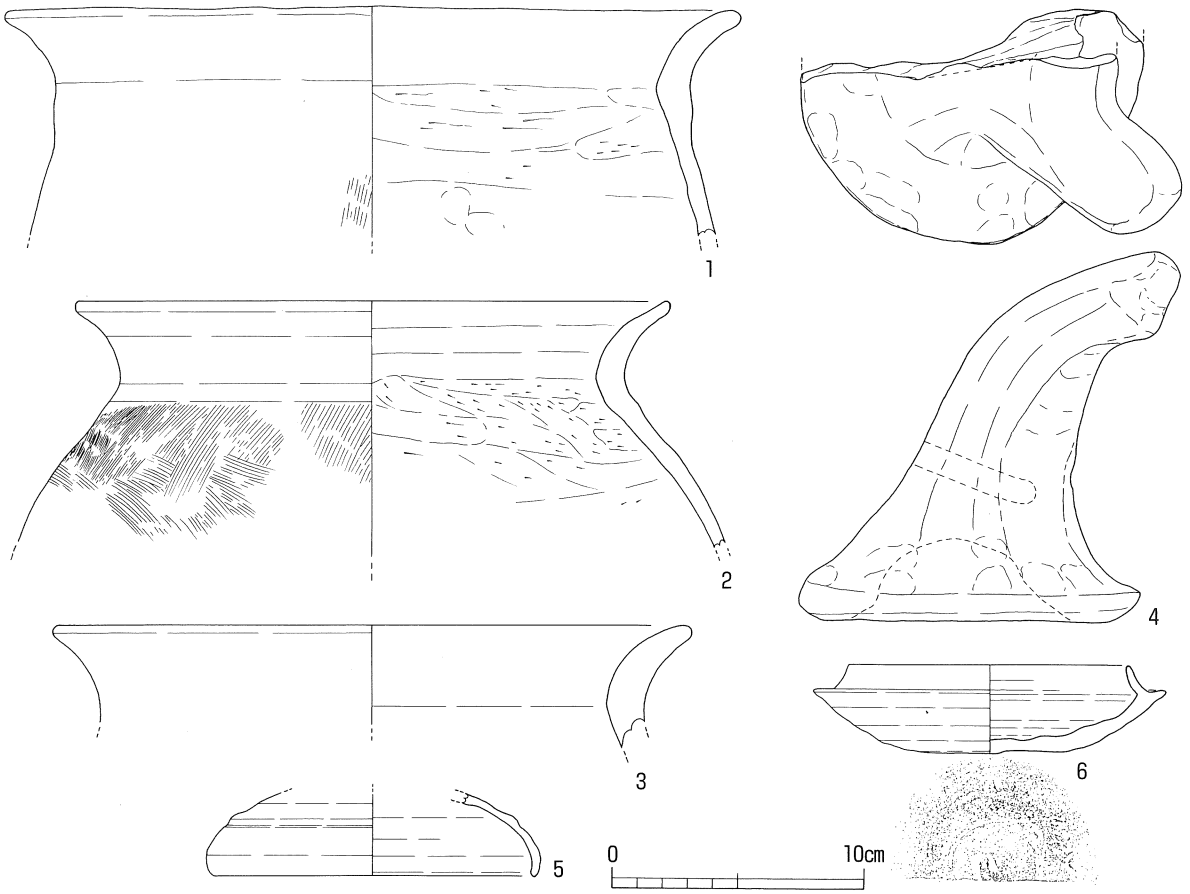
9は口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味にしている。10は高坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。3方向に切り込みの透かしが入っている。11は坏身で、口縁部内外面ともに回転ナデ調整を施すが、底部外面は風化のため調整不明である。口縁部は内湾気味に伸び外傾し、端部は尖り気味に仕上げている。一方、口縁部内側には小型のかえりを施す。かえり端部は尖らせている。12は坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部は風化のため調整不明であるが、付け高台を施している。器壁は外方に直線的に立ち上がる。

3．その他の出土遺物

第70～73図は排水路掘削時に出土した遺物である。北側排水路及び東側排水路は、ＳＤ03を切っていることから、ＳＤ03の撹乱遺物を多く含んでいる。

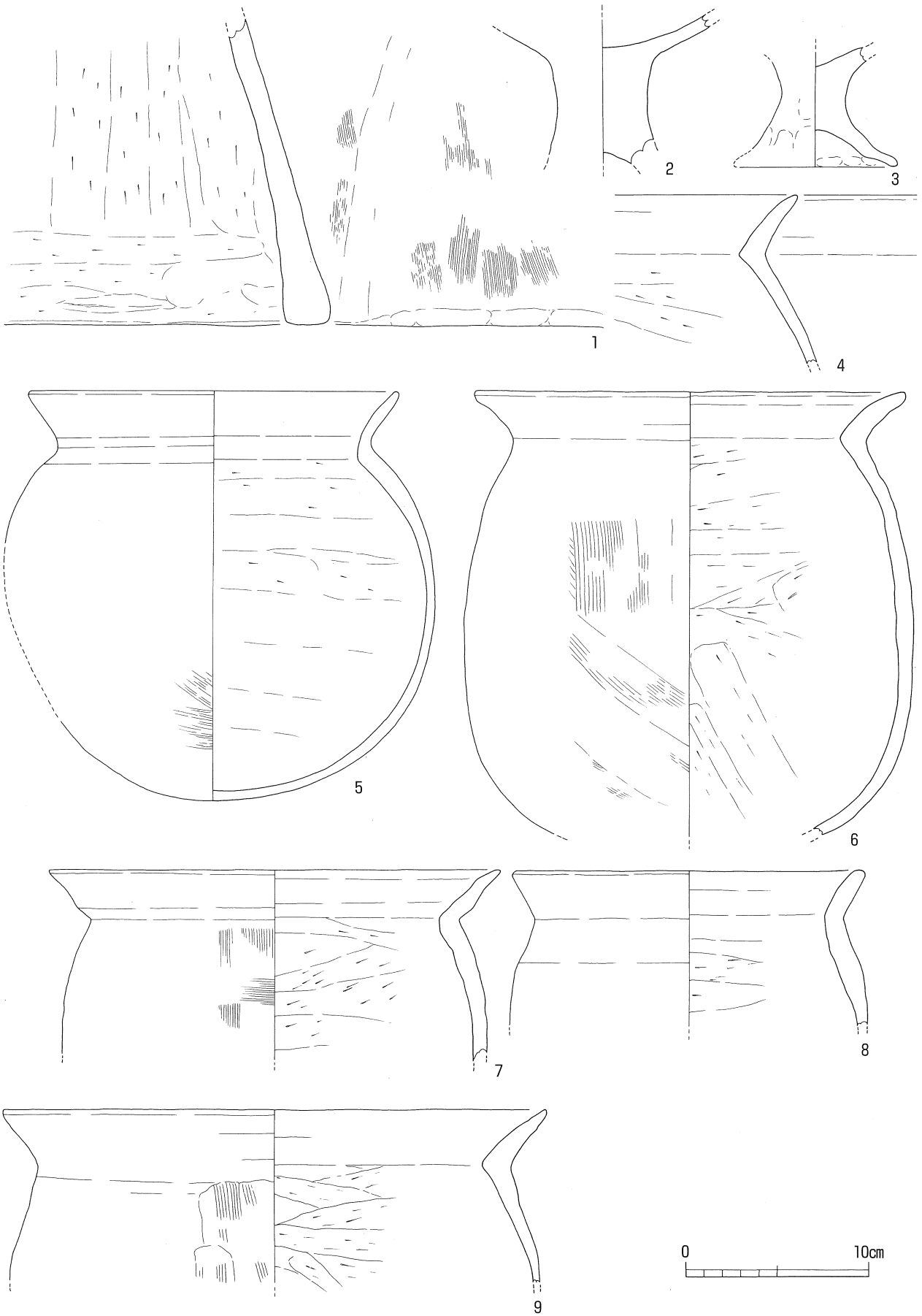
〈北側排水路出土遺物〉

第70図１～４は土師器である。１～３は甕で、１，２は口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整、体部外面にハケ目調整を施す。１は口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。２は口縁部は外反しながら立ち上がった後内湾気味となり、端部は尖り気味に仕上げてい



第70図　北側排水路出土遺物

る。３は口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。４は土製支脚で、外面にヘラミガキ調整及び指頭圧痕を施す。底部に繰込、側面に穿孔が施されている。５，６は須恵器である。５は坏蓋で、口縁部内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は天井部から内湾気味に伸び、外面に稜を作った後内湾する。端部は尖り気

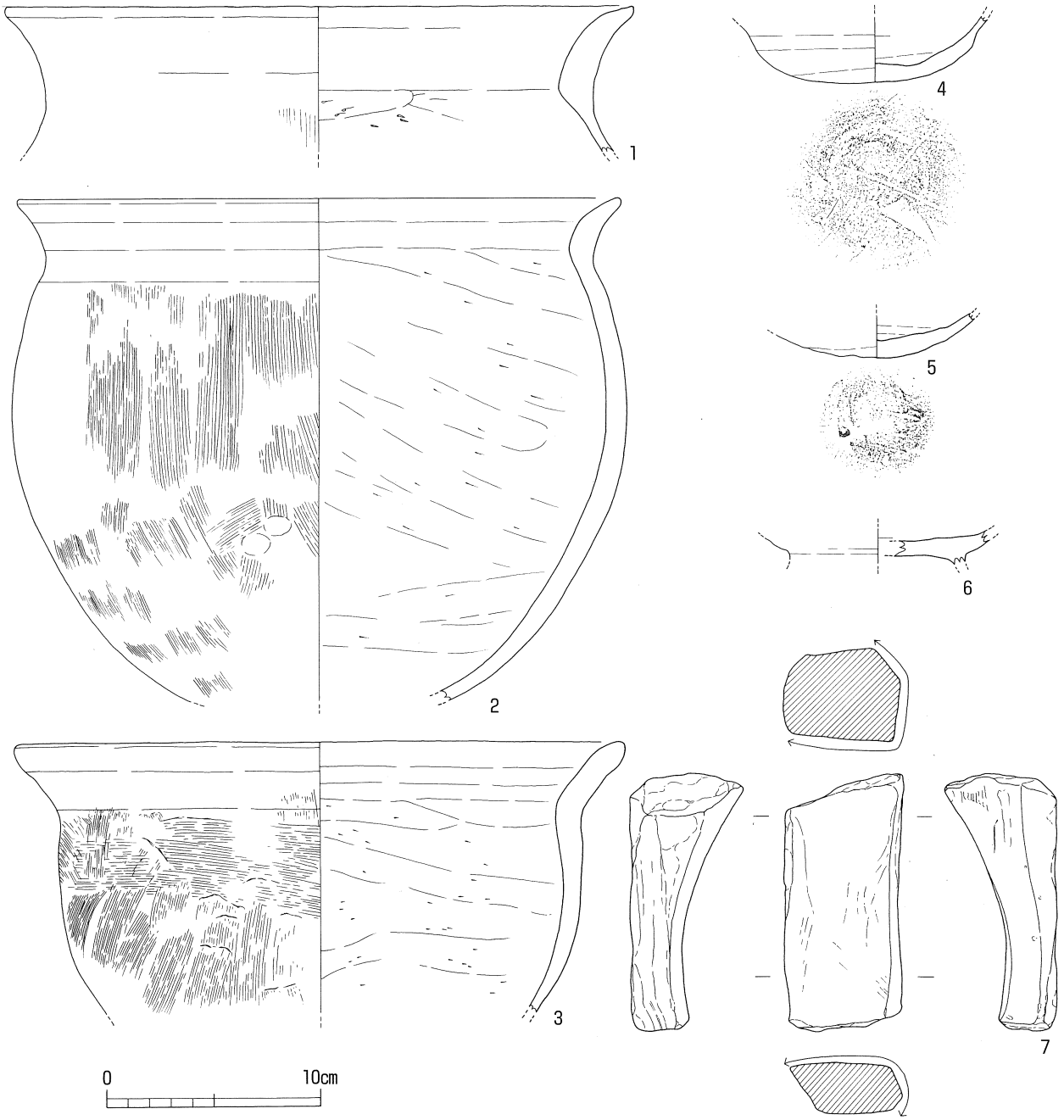


第71図　東側排水路出土遺物１

味に仕上げている。６は坏身で、口縁部内外面ともに回転ナデ調整、底部外面に回転ヘラ切り調整後ナデ調整を施す。口縁部は外方に内湾気味に伸び外傾する。端部は尖り気味に仕上げている。一方、口縁部内側にはかえりが施され、内傾後反り上がる。かえり端部は尖り気味にしている。

〈東側排水路出土遺物〉

第71図１～９は土師器である。１は竈脚部で、内面にヘラケズリ調整、外面にハケ目調整を施す。裾の広がりは外方に直線的に広がり、端部を両側に肥厚させて平坦面を作っている。底部平坦面に整形台の痕跡が転写されている。２，３は高坏で風化が著しいものの、２は内外面ともにヘラミガキ調整を施しているものと推定される。脚部内面にはナデ調整を施す。器壁の立ち上がりは内湾気味である。３は脚部外面及び裾部内面に指頭圧痕が残る。脚部の広がりは裾部で内湾気味となり、端部は丸



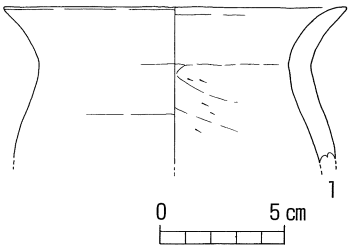
第72図　東側排水路出土遺物２

く仕上げている。４～９は甕で、口縁部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整を施す。また４～７，９は体部外面にハケ目調整が施されている。８は風化のため体部外面の調整は不明である。４，９は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。５は口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。６は口縁部は外反しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げる。体部外面に煤が付着している。７は口縁部は外方に直線的に伸びるがやや括れている。端部は尖り気味に仕上げている。８は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。

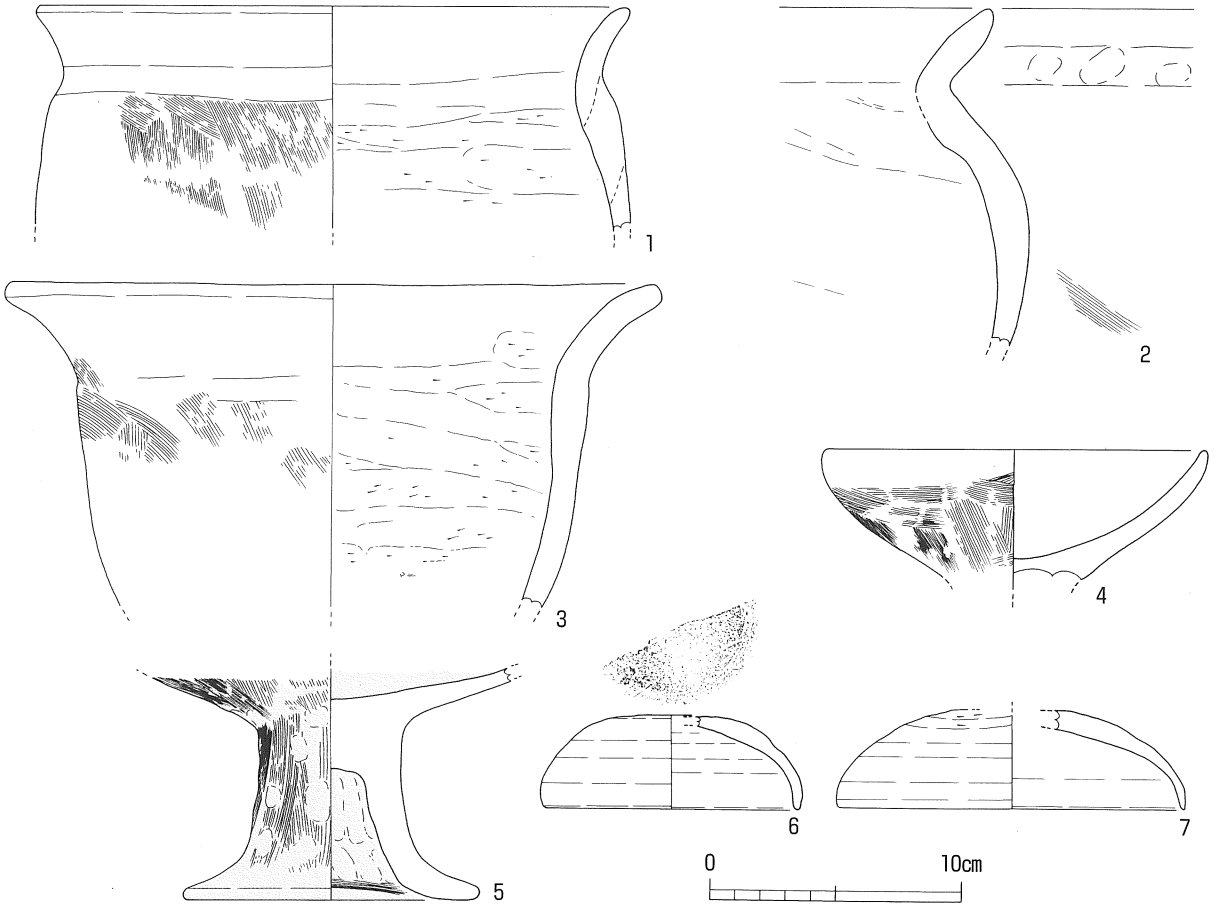
第72図１～３は土師器甕で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整を施す。また２，３は体部外面にハケ目調整が施されている。１は口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を尖らせている。口縁部内外面に煤が付着する。２は口縁部は外反しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げている。外面に指頭圧痕が若干残る。３は外反気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げている。４～６は須恵器である。４，５は坏身で、口縁部内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面は回転ヘラ切り調整を施した後、ヘラ状工具痕を残す。内面見込は回転ナデ調整後ナデ調整を施している。４は口唇部でやや外傾し、５は器壁は内湾気味に立ち上がる。６は高台付坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部に高台を施している。７は砥石で、３面以上を砥面として利用している。

〈南側排水路出土遺物〉

第73図１は土師器甕で、口縁部内外面ともにナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整を施す。体部外面は風化が著しく詳細は不明であ



第73図　南側排水路出土遺物



第74図　撹乱土出土遺物

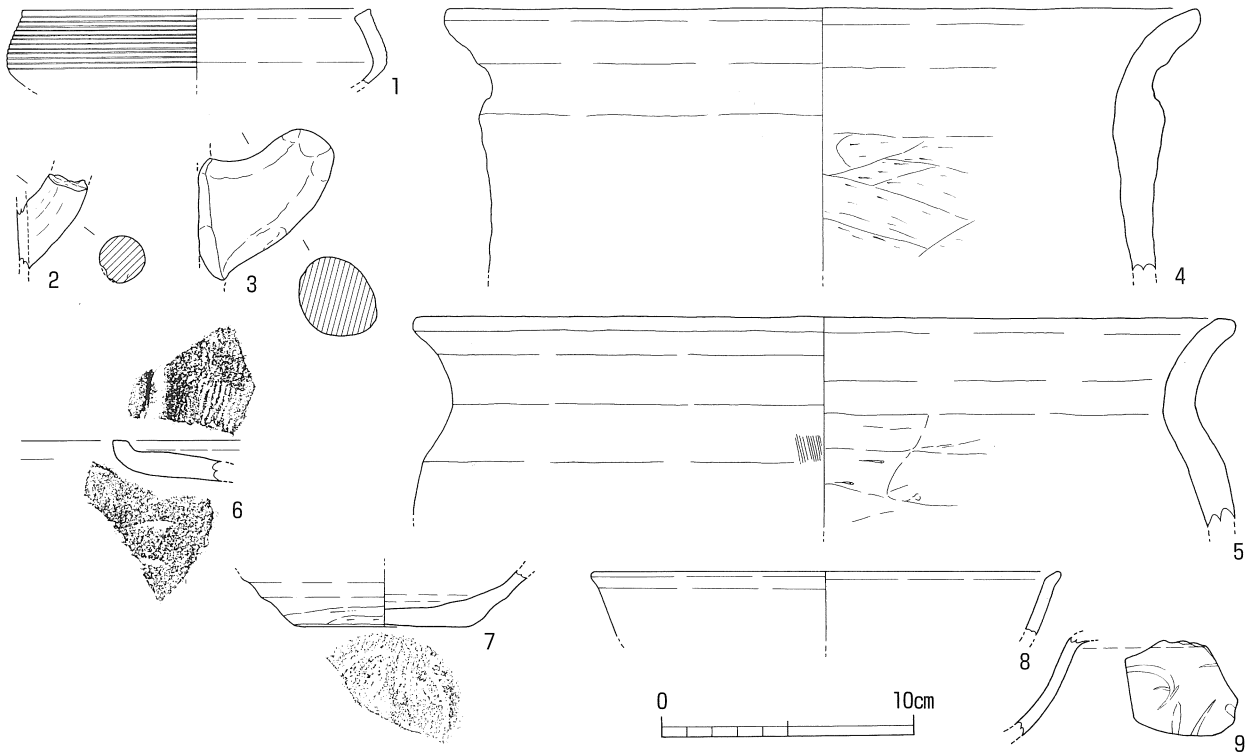
る。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を尖らせている。

〈撹乱土出土遺物〉

第74図は撹乱土の出土遺物で、その多くはＳＤ03上面が撹乱された時の遺物である。１～４は土師器である。１，２は甕で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整、体部外面にハケ目調整を施す。１は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。断面に粘土の接合痕が残る。２は口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。頸部に指頭圧痕が残る。３は甑で、口縁部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整、体部外面にハケ目調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部に平坦面を作る。４は高坏の器部で、口縁部内外面及び内面見込にナデ調整を施し、器部外面にハケ目調整を施す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。５は赤彩土器高坏で、器部内面にナデ調整、器部外面にハケ目調整及び指頭圧痕を施す。一方、脚部は内面にヘラケズリ調整及び指頭圧痕、外面にハケ目調整及び指頭圧痕、裾部内外面にナデ調整を施す。脚部の広がりは、裾部で外反し、端部は丸く仕上げている。６，７は須恵器坏蓋で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、天井部には回転ヘラケズリ調整を施す。立ち上がりは、６は天井部から内湾しながら伸びた後やや内傾し、端部で尖り気味に仕上げる。７は天井部から内湾しながら伸びた後やや外傾し、端部を尖らせている。

〈造成土出土遺物〉

第75図は造成土に含まれていた遺物である。１，２は弥生土器で、１は高坏である。内外面ともにナデ調整を施し外面に凹線を施す。口縁部は内傾し端部をやや肥厚させて平坦面を作っている。２は断面円形の把手で、外面にヘラミガキ調整を施す。３～５は土師器で、３は甑の把手である。外面にヘラミガキ調整を施す。４，５は甕で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整を施す。

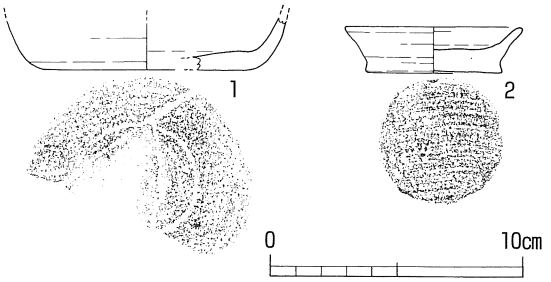


第75図　造成土出土遺物

体部外面は風化が著しく調整は不明である。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げている。6，7は須恵器である。6は甕の口縁部で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面に車輪文，体部外面にタタキ状の痕跡を残す。口縁部は内傾し、端部に水平な平坦面を作っている。7は坏または袋物の遺物と考えられ、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転ヘラ切り調整の後ナデ調整を施している。8，9は端反の青磁碗である。8は無文のもので、内外面ともに施釉し貫入が入る。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外傾し、端部は丸く仕上げている。9は外面に施文するタイプで、内外面ともに施釉し、口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反する。

〈暗渠排水出土遺物〉

第④層上面で暗渠を確認しているが、土地改良以前の暗渠排水と考えられることから遺物のみ図示する。

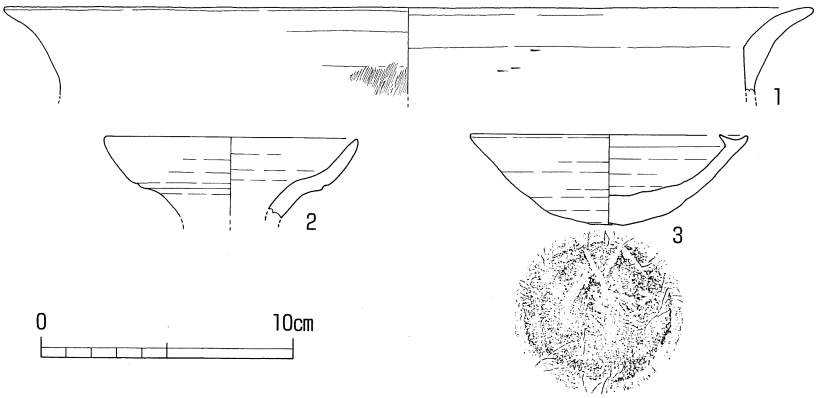


第76図　暗渠排水出土遺物

第76図1は一見土師器に見えるほど焼成の悪い須恵器坏である。内外面ともに回転ナデ調整、底部に回転ヘラ切り調整または回転ヘラケズリ調整を施している。器壁は内湾気味に立ち上がる。2は土師質土器小皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に静止糸切痕を残す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は尖らせている。器壁と底部の界線は明確である。

〈排土中出土遺物〉

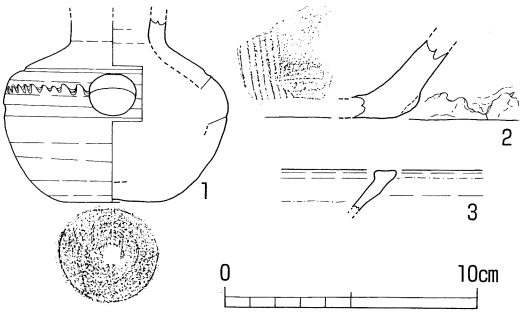
第77図は排土中遺物である。1は甕または甑で、口縁部内外面にナデ調整を施し、頸部下外面にハケ目調整、内側にヘラケズリ調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。2，3は須恵器である。2は甕の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は、外面に施された1条の沈線から内湾気味に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。3は坏身で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転ヘラ切り調整後ナデ調整を施す。口縁部は外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げる。一方、口縁部内側には小型のかえりが施され、かえり端部は尖らせている。



第77図　排土中出土遺物

〈その他の出土遺物〉

第78図はその他の出土遺物である。1は須恵器甕である。体部の形状は肩が張るタイプで、外面は頸部から体部中程に回転ナデ調整を施し、底部に回転ヘラケズリ調整を施す。肩部下には波状文、穿孔が施されている。2は備前焼擂鉢である。内面はナデ調整後、6



第78図　その他の出土遺物

条以上の擂目を施すが、外面は風化のため調整不明である。３は瀬戸焼で卸皿と推定される。口縁部外面から口唇部内面に灰釉が施され貫入が入る。他は露胎としている。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部を両側に肥厚させて水平な平坦面としている。

４．まとめ

古志遺跡は昭和47年の圃場整備の際に確認された遺跡である。この時に多量の布目瓦が確認されており、軒丸瓦の時期から９世紀頃と考えられている。

今回の調査地は圃場整備が実施された区域の東隣に位置している。布目瓦の出土量は遺跡全体で20片程度で、調査区内から礎石立ちの建物跡を検出していないことから、調査地から出土する布目瓦は、西側隣接地からの流れ込みと考えられる。

しかしながら調査区からは、直径１ｍ程度の柱穴を持つ大型の掘立柱建物跡など７世紀後半から９世紀初の間の16棟の建物跡が確認されており、その平行関係から最大６群程度に分類することができる。このうちＳＢ01（８世紀前半、Ｎ～28°～Ｗ）、ＳＢ07（８世紀前半、Ｎ～32°～Ｗ）、ＳＢ08（８世紀前半、Ｎ～27°～Ｗ）の群は古志本郷遺跡のＩ期神門郡庁（８世紀前葉から中葉、Ｎ～32°～Ｗ）と建物の方向がほぼ平行関係にあり、神門郡家との関係も考える必要がある。建物跡のうちＳＢ04、ＳＢ07、ＳＢ08、ＳＢ09は柱根各１本の^{14}Ｃ年代測定を実施しており、概ね土器、平行関係、層位から判断した時期と合致している。しかしＳＢ08についてはやや古い値が出ており、この遺構の柱については転用の可能性も考えられる。また遺物としては、甑、土製支脚といった煮炊具が割合的に多く、今後充分に検討していく必要がある。

古志遺跡は古代瓦が出土する遺跡として知られていたが、発掘調査が行われていなかったため不明な点が多かった。発掘調査により貴重なデータが得られたことは、今後、出雲平野の遺跡を研究するうえでの一助となるであろう。

第４章　考察－遺構の主軸方位から見た古志遺跡と古志本郷遺跡の関連性について－

古志遺跡からは７世紀後半～９世紀初の16棟の建物跡、５条の柵列などが検出されている。これらには径約１ｍを測る柱穴が含まれているほか、遺跡から円面硯が出土していることから、官衙関連施設を考える必要がある。北側にある古志本郷遺跡は『出雲国風土記』に記載される神門郡家に比定されており、当遺跡との関連も推定される。両遺跡は９世紀中頃から14世紀の遺物が極めて少ないことなど共通点が多く、本稿では古志本郷遺跡検出遺構との比較のもと、古志遺跡検出遺構を検討してみた。

１．古志本郷遺跡検出遺構について

古志本郷遺跡は以前より周知の遺跡で、昭和62年の第１次調査が実施されてから平成１３年の第13次調査まで発掘調査が実施された。平成10～11年度に実施された第９～１０次調査では奈良時代の郡家関連建物群が確認され、『出雲国風土記』に記載される神門郡家に比定されている。

建物跡は郡庁の中心建物を形成する巨大建物遺構を筆頭に、約２０～３０㎡規模の遺構が多い。これらの遺構の多くは遺物を伴わないため、遺物の年代は遺構の年代上限を示す資料として評価されており、遺構同士の切り合い、配置の規則性や主軸方位から総合的に判断した結果、下記の点が指摘されている。

① 建物の主軸方位はＮ～32°－42°～Ｗの角度を持つ群とＮ～０°－７°～Ｗの角度を持つ群の２群に大別される。

② ①の２群は概ねⅠ期遺構（８世紀前葉～後葉）、Ⅱ期遺構（８世紀後葉～９世紀前葉）にあたる

③ Ｎ～50°－89°～Ｗをなす建物が皆無。

２．古志遺跡検出遺構について

古志遺跡は昭和47年の土地改良時に高塚久司氏が多量の古瓦を確認し、周知の遺跡となっている。出土した軒丸瓦の時期から遺跡の時期は９世紀頃と考えられていた。今回の調査区は周知の遺跡範囲外であった東側の部分であったが、北側の古志本郷遺跡（第３・４次）の調査結果から古志遺跡の一部と推定された。

建物跡は中心建物と考えられるＳＢ01が40㎡を超えるほかはいずれも30㎡を下回り、大半が20㎡以下の面積を測る（表１，第79図）。規模的には明らかに下回っていると言えよう。遺構の時期については遺物を伴わない遺構も多いが、遺構面上層及び下層から遺物が出土しており、遺構同士の切り合い、配置の規則性や主軸方位も参考に総合的に判断した。その結果、下記の点が指摘できる。

① 建物の主軸方位はＮ～27°－42°～Ｗの角度を持つ群（Ⅰ群）とＮ～０°－10°～Ｗの角度を持つ群（Ⅱ群）の２群のほか、Ｎ～15°－16°～Ｗの群（Ⅲ群）、Ｎ～21°－22°～Ｗの群（Ⅳ群）があり、前２群はそれぞれ２つの支群（Ⅰ－ａ群及びⅠ－ｂ群、Ⅱ－ａ及びⅡ－ｂ群）に分けられる（表２）。

② 群は時期的まとまりを示している可能性が高く、Ⅰ－a群は古志本郷遺跡Ⅰ期遺構と、Ⅱ－a群は同遺跡Ⅱ期遺構に対応する可能性がある。

③ 建物跡の一部は柱根の^{14}C年代測定を実施している。測定の結果、概ね合致する成果を得たが、推定時期よりもやや古い値を示した遺構もあり（ＳＢ08)、転用材の可能性も考える必要がある。

④ Ｎ～36°－89°～Ｗをなす建物跡が皆無。

３．両遺跡の関連について

古志本郷遺跡Ⅰ期遺構の主軸方向（Ｎ～32—42°～Ｗ、領域Ａ）は、旧山陰道の影響を受けている可能性が指摘されている。旧山陰道の位置については議論もあるが、現在の多伎江南出雲線（Ｎ～35°～Ｗ）付近に比定されると考えられている。これを基準とすると、古志本郷遺跡Ⅰ期遺構との誤差は最大±７°程度が考えられ（領域Ａ～Ａ′)、その領域はほぼⅠ－ａ群とⅠ－ｂ群を併せた領域となる。Ⅰ－ｂ群は8世紀前半の結果を得ているので、両支群は古志本郷遺跡Ⅰ期遺構と並存していた可能性が高い。次に古志本郷遺跡Ⅱ期遺構の主軸方向（Ｎ～０—７°～Ｗ、領域Ｂ）にⅠ群と同程度の誤差を投影すると（中心軸Ｎ～3°30′～Ｗから±７°、領域Ｂ～Ｂ′)、Ⅱ－a群とⅡ－ｂ群は包括される。但し両支群には切り合い関係が存在するため、若干の時期差が存在する。Ⅲ群及びⅣ群については、古志本郷遺跡ではあまり見られない主軸方向を呈するが、検出棟数から小群の可能性が高い（第80図)。

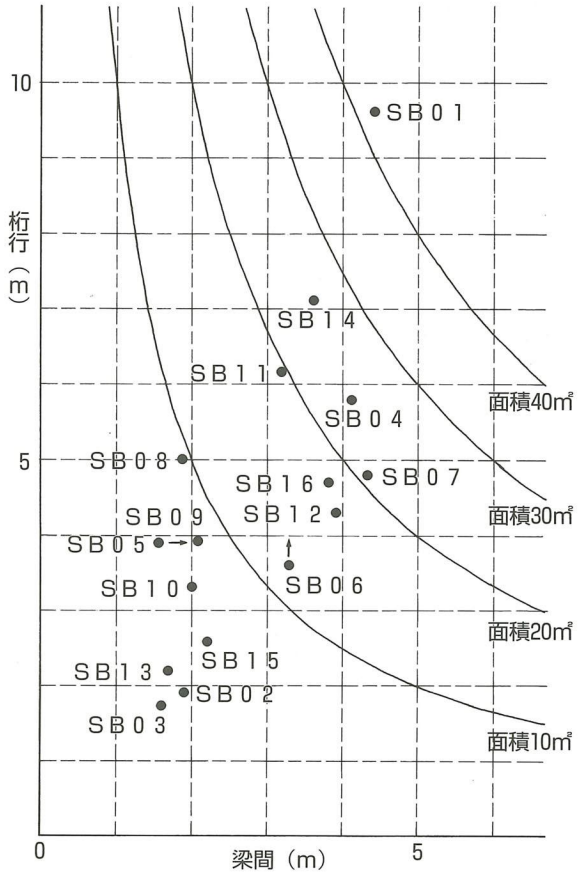
以上のことから、領域Ａ～Ａ′、領域Ｂ～Ｂ′はそれぞれ旧山陰道の影響を受けていた方位軸群と、旧山陰道の制約が少なくなり正方位を意識していた古志本郷遺跡Ⅱ期遺構に準ずる方位軸群を示し、古志遺跡の２大群であるⅠ群及びⅡ群についてもそれぞれに包括される。松尾充晶氏が古志本郷遺跡の調査で指摘しているように、古志地区周辺では①旧山陰道の制約を受けた主軸方向→②正方位を意識した主軸方向といった規則性の上にグラウンドデザインされていたのであろう。

従って、両遺跡は主軸方位の上でもかなりの類似性が見られ、Ｎ～50°－89°～Ｗの建物跡が全く検出されないことでも共通している。同じ規則性の下で営まれた両遺跡は、距離的にも密接に関連した可能性が指摘できよう。建物規模から言えば明らかに古志本郷遺跡が上位に位置付けられ、古志遺跡には附属施設的役割を考える必要がある。出土遺物では移動式竈、土製支脚、甑といった煮炊具が多く出土しており、厨屋的な施設なども考える必要があろう。しかしながら当遺跡は、古志本郷遺跡北側に所在する郡庁比定地から約900ｍの距離があり、厨屋としては遠過ぎるとの問題も指摘されている。郡家の役人の居住域であった可能性も考えられる。古志遺跡の範囲は調査区外へさらに広がることが推定されることから、今後の資料の増加を待って改めて検討することとしたい。

掘立柱建物面積

群	遺構名	桁行	梁間	面積
Ⅱ－a群	ＳＢ１４	7.1	3.6	25.6
	ＳＢ１６	4.7	3.8	17.9
Ⅱ－b群	ＳＢ０３	1.7	1.6	2.7
	ＳＢ１１	6.2	3.2	19.8
Ⅲ群	ＳＢ０４	5.8	4.1	23.8
	ＳＢ０５	3.9	1.6	6.2
	ＳＢ０９	3.9	2.1	8.2
	ＳＢ１２	4.3	3.9	16.8
Ⅳ群	ＳＢ０６	3.6	3.3	11.9
	ＳＢ１０	3.3	2.0	6.6
Ⅰ－b群	ＳＢ０８	5.0	1.9	9.5
	ＳＢ０１	9.6	4.4	42.2
Ⅰ－a群	ＳＢ０７	4.8	4.3	20.6
	ＳＢ１３	2.2	1.7	3.7
	ＳＢ０２	1.9	1.9	3.6
	ＳＢ１５	2.6	2.2	5.7

表１　掘立柱建物平面プラン

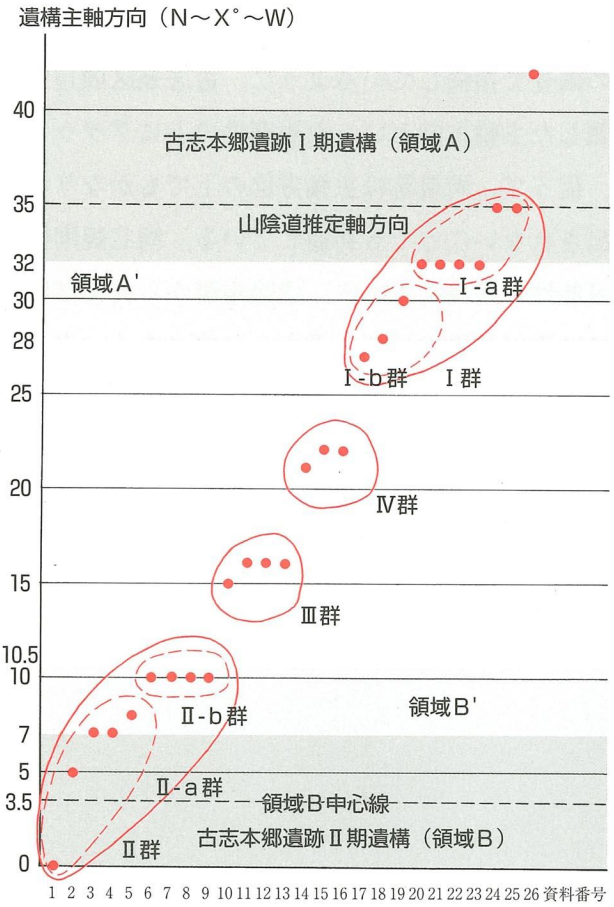


第79図　掘立柱建物平面プラン分布図

群	遺構名	遺構主軸方向 (N～x°～W)	遺構の時期	^{14}C 分析結果	資料番号
Ⅱ－a群	Ⅱ期郡家	0	8ｃ後葉～9ｃ前葉		1
	ＳＢ１４	5	7ｃ後～9ｃ初		2
	ＳＡ０３	7	7ｃ後～9ｃ初		3
	Ⅱ期郡家	7	8ｃ後葉～9ｃ前葉		4
	ＳＢ１６	8	7ｃ後～9ｃ初		5
Ⅱ－b群	ＳＢ０３	10	8ｃ～9ｃ初		6
	ＳＢ１１	10	8ｃ～9ｃ初		7
	ＳＡ０２	10	8ｃ～9ｃ初		8
	ＳＡ０４	10	8ｃ～9ｃ初		9
Ⅲ群	ＳＢ０４	15	7ｃ後～9ｃ初	7ｃ後	10
	ＳＢ０５	16	7ｃ後～9ｃ初		11
	ＳＢ０９	16	7ｃ後～9ｃ初	7ｃ後or8ｃ中	12
	ＳＢ１２	16	7ｃ後～9ｃ初		13
Ⅳ群	ＳＡ０１	21	7ｃ後～9ｃ初		14
	ＳＢ０６	22	7ｃ後～9ｃ初		15
	ＳＢ１０	22	7ｃ後～9ｃ初		16
Ⅰ－b群	ＳＢ０８	27	8ｃ前	7ｃ後	17
	ＳＢ０１	28	8ｃ前		18
	ＳＡ０５	30	8ｃ前		19
Ⅰ－a群	Ⅰ期郡家	32	8ｃ前葉～後葉		20
	ＳＢ０７	32	8ｃ～9ｃ初	7ｃ後or8ｃ中	21
	ＳＢ１３	32	8ｃ～9ｃ初		22
	ＳＢ１５	32	8ｃ～9ｃ初		23
	ＳＢ０２	35	8ｃ～9ｃ初		24
	推定山陰道	35			25
	Ⅰ期郡家	42	8ｃ前葉～後葉		26

※柵列については垂直方向に補正

表２　遺構主軸方向



第80図　遺構主軸方向分布図

第５章　古志遺跡発掘調査に係る自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

はじめに

古志遺跡は島根県中央部、出雲市古志町地内に位置し、神戸川の成す扇状地上に立地する遺跡である。

本報は、遺跡近辺の植生復元および遺構の時期確定を目的として、出雲市(出雲市文化財室)が文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施した、花粉分析およびＡＭＳ年代測定報告書の概報である。

分析試料について

図１に、花粉分析用試料およびＡＭＳ年代測定用試料の採取地点を示す（図1に「ＳＢ○○-○」とした４地点が、ＡＭＳ年代測定用試料とした柱根を採取した柱穴の位置である。)。また、花粉分析用試料採取地点の堆積相および試料採取層準を図2の花粉ダイアグラム中、左側の柱状図に示す。

分析方法および分析結果

(1)　花粉分析

処理は渡辺（1995）に従って行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて行った。花粉分析では原則的に木本花粉総数が200個体以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また、イネ科花粉を中村（1974）に従い、イネを含む可能性の高い大型のイネ科（40ﾐｸﾛﾝ以上）と、イネを含む可能性の低い小型のイネ科(40ﾐｸﾛﾝ未満)に細分している。

分析結果を図2の花粉ダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは木本花粉総数を基数として各分類群毎に百分率を算出し、木本花粉を黒塗りスペクトルで、草本花粉を白抜きスペクトルで示した。また右端の花粉総合ダイアグラムでは木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉、胞子の総数を加えたものを基数として、それぞれの分類群毎に累積百分率として示した。

(2)　^{14}Ｃ年代測定

ＡＭＳ法を用いた。測定結果を表１に示す。今回得られたＡＭＳ年代測定値はすべて、７世紀後半の暦年代較正値を示し、発掘調査の成果と一致する。

詳細に検討すると、７世紀後半を示す一群（SB04-8、SB08-5）と、７世紀後半あるいは８世紀中頃を示す一群（SB07-5、SB09-4）に別れ、２時期の建物群に分かれる可能性も指摘できる。

花粉分帯

花粉分析の結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花

粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料№も下位から上位に向かって記した。

(1) Ⅱ帯（試料№4）

マツ属（複維管束亜属）、アカガシ亜属、コナラ亜属が高率を示し、スギ属、クマシデ属－アサダ属を伴う。

(2) Ⅰ帯（試料№3～1）

マツ属（複維管束亜属）が卓越する。スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う下位（試料№3、2）のｂ亜帯と、スギ属、コナラ亜属を伴う上位（試料№1）のａ亜帯に細分できる。

近隣の花粉分析結果との比較

古志遺跡近辺の下古志遺跡では、従来より花粉分析が実施・報告されている（渡辺，2001）。渡辺（2001）は18地点で花粉分析を実施し、Ⅰ～Ⅲ帯の局地花粉帯を設定した。ここでは、Ⅱ帯を除きマツ属（複維管束亜属）が卓越し、スギ属も比較的高率で出現している。今回分析対象とした試料の堆積時期は古代、中世、近世以降であり、渡辺（2001）の時期にほぼ重なる。

Ⅱ帯（今回設定の局地花粉帯を以下同様に表記する）ではアカガシ亜属、コナラ亜属、マツ属（複維管束亜属）が特徴的に検出されることから、W-Ⅱ帯（渡辺（2001）で設定された局地花粉帯を以下同様に表記する）に相当する可能性がある。

Ⅰ帯がW-Ⅰ帯に相当すると考えられる。亜帯レベルで考えた場合、Ⅰ帯ｂ亜帯からａ亜帯への、マツ属（複維管束亜属）、スギ属の増加、アカガシ属の減少の傾向はW-Ⅰ帯ｂ亜帯内（Ｂ区ＳＤ49地点）で認められる。また、W-Ⅰ帯ａ亜帯で認められるアブラナ科花粉の高率出現は、ナタネ栽培に由来すると考えられ、現地性が強いことから、W-Ⅰ帯ａ亜帯が、ｂ亜帯に含まれる可能性もある。

今回設定した局地花粉帯と古志遺跡で設定した局地花粉帯との対応関係は、表2のようにまとめられる。

古環境変遷

(1) Ⅱ帯期（７世紀頃）

1) 周辺地域の植生

渡辺（2001）はW-Ⅲ帯の花粉組成から推定される植生を、「遺跡の南から東に広がる中国山地縁辺の丘陵にアカマツを要素とする二次林が分布していた。」あるいは、「クロマツ海岸林が広く分布していた。」としている。ただし、明記してないものの、双方同時に存在した可能性を否定したわけではない。一方W-Ⅲ帯からW-Ⅱ帯への移行は、下古志遺跡のＴ2試掘調査（文化財調査コンサルタント株式会社，2001）で認められており、その原因を「アカマツ林の照葉樹林への遷移、および砂州の発達に伴うクロマツ海岸林の西進と肥沃化に伴う照葉樹林への遷移により、出雲平野南側の丘陵、西側の浜山砂丘に照葉樹林が広がった。」と考えている。

したがって、この時期には出雲平野南側の丘陵、西側の浜山砂丘に照葉樹林が広がったと考えられる。

2) 調査地近辺の植生

イネ科（40ミクロン以上）花粉の出現率が高いものの、他の草本花粉の出現率も同程度、あるいはそれ以上に高い出現率を示す。「雑草」の量が多いことと、イネ科（40ミクロン以上）花粉が必ずしもイネを示すものでないことから、直ちに調査地点近辺での稲作を推定するには難がある。しかし、試料採取層準が水平堆積をし、広い範囲で分布することから、試料採取層準が耕作土層であった可能性が指摘できる。

(2) Ⅰ帯期（古代～近世以降）

1) 周辺地域の植生

マツ属（複維管束亜属）が卓越し増加傾向を示すことから、アカマツ林（いわゆる「里山」、「薪炭林」）が周辺地域で分布を広げていったと考えられる。草本花粉の割合が高く、遺跡近辺に森林が迫っていたとは考えにくいことから、アカマツ林は遺跡南～東に広がる丘陵から中国山地縁辺部にかけて分布していたと考えられる。また、「園の松原」や浜山丘陵にはクロマツ海岸林、島根半島にはアカマツ林が分布していた可能性が高い。

出雲平野内の多くの地点では、スギ属が鎌倉時代頃まで高い出現率を示す傾向にあるが、今回の古志遺跡あるいは既知の下古志遺跡の結果ではこの傾向がほとんど認められず、遺跡近辺にスギの分布が少なかったことが分かる。

2) 遺跡近辺の植生

イネ科（40ミクロン以上）花粉の出現率が高く、遺跡内には水田が広がっていたと考えられる。また、上部の2試料でソバ属花粉が出現し、裏作、あるいは畦などを用いてソバ栽培が行われていたことが判る。

まとめ

ＡＭＳ年代測定結果から、建物群が７世紀後半のものであることが明らかになった。ただし、７世紀後半と８世紀中頃の２時期の建物群であった可能性もある。

花粉分析を実施した結果、以下のことが明らかになった。

(1) 花粉分析結果から、本地域の花粉化石群集をⅠ、Ⅱ帯の２花粉帯に分帯し、Ⅰ帯をさらにａ、ｂ亜帯に細分した。

(2) 古代から近世頃の遺跡周辺の古植生変遷を推定した。

(3) 調査地点近辺では７世紀頃には稲作が行われていた可能性が高い。

引用文献

中村　純（1974）イネ科花粉について,とくにイネを中心として．第四紀研究，13,187-197.

渡辺正巳（1995）花粉分析法．考古資料分析法，84，85．ニュー・サイエンス社

渡辺正巳（2001）下古志遺跡発掘調査に伴う花粉分析等調査．一般県道多伎江南出雲線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書下古志遺跡－本編－，472-485，出雲市教育委員会，島根県.

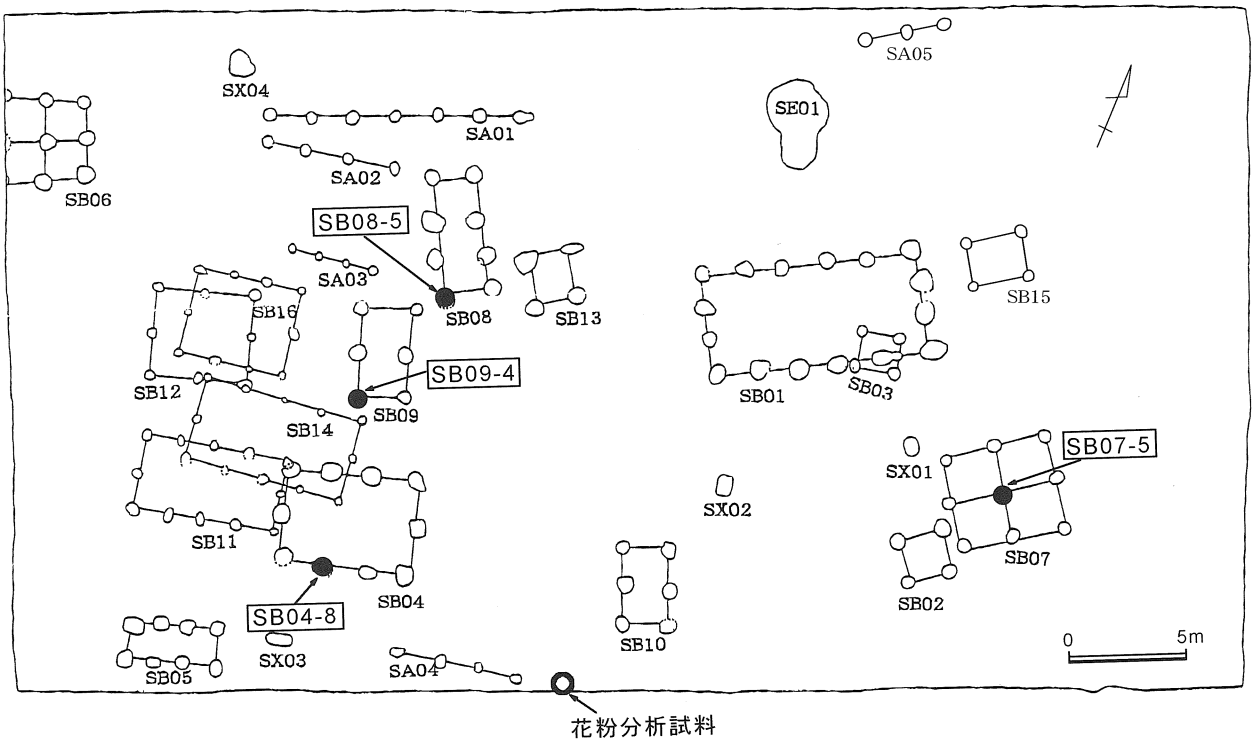


図１　遺構配置および試料採取地点

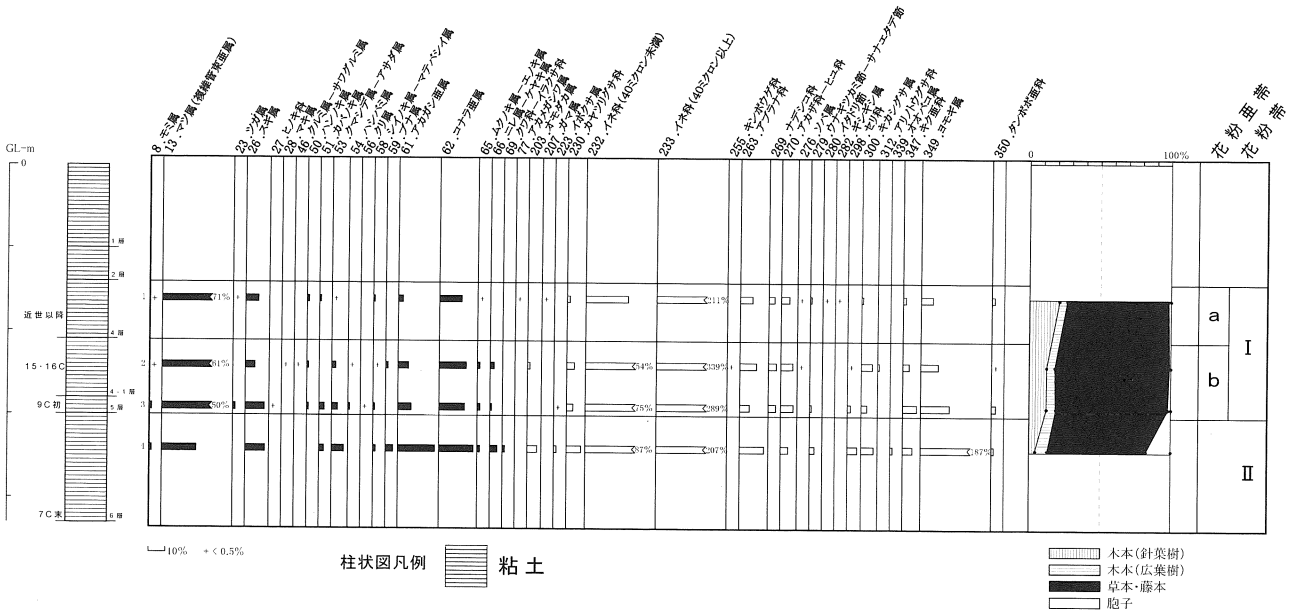


図２　花粉ダイヤグラム

表 1. AMS年代測定結果

試料No.	測定年代	$\delta^{13}C$	補正^{14}C	暦年代*1	測定番号
	(yBP)	(‰)	(yBP)	(cal y.)	(PLD-)
ＳＢ04-8	1390±40	-24.3	1405±40	ＡＤ560-690	2601
ＳＢ07-5	1385±40	-27.1	1350±40	ＡＤ635-730 ＡＤ735-775	2602
ＳＢ08-5	1460±40	-27.3	1425±40	ＡＤ555-670	2603
ＳＢ09-4	1410±40	-28.9	1345±40	ＡＤ635-730 ＡＤ735-775	2604

*1：2σ

表 2. 古志遺跡と下古志遺跡での各局地花粉帯の関係

<table>
<tr><th colspan="3">下古志遺跡
（渡辺,2001）</th><th colspan="3">古志遺跡
今回の結果</th><th colspan="2">花粉組成の特徴</th></tr>
<tr><th colspan="2">花粉帯</th><th>堆積時期</th><th colspan="2">花粉帯</th><th>堆積時期</th><th>花粉帯</th><th>亜帯</th></tr>
<tr><td rowspan="3">Ⅰ</td><td>a</td><td>現代</td><td colspan="3" rowspan="2"></td><td rowspan="3">Diplo.
>Crypto.</td><td>Cruci.
Gra(>40)</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">b</td><td>近世以降</td><td rowspan="2">Ⅰ</td><td>a</td><td>近世以降</td><td rowspan="2">Gra(>40)</td></tr>
<tr><td>中世
～
奈良平安</td><td>b</td><td>15・16C
～
9C</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">Ⅱ</td><td>奈良平安</td><td colspan="2">Ⅱ</td><td>7C</td><td colspan="2">Cyclo.>Diplo.,
Crypto.,Quer.</td></tr>
<tr><td rowspan="2">古墳初頭
～
弥生末</td><td colspan="3" rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅲ</td><td>a</td><td rowspan="2">Diplo.
>Crypto.</td><td>Grass</td></tr>
<tr><td>b</td><td></td></tr>
</table>

Diplo.:マツ属（複維管束亜属）、Crypto.:スギ属、Cyclo.:アカガシ亜属、Quer.:コナラ亜属
Cruci.:アブラナ科、Gra(>40):イネ科（40ﾐｸﾛﾝ以上）、Grass:草本花粉

出土遺物観察表（土器類）

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
10-1	図版19	ＳＤ０２	弥生土器	甕				内：ナデ 外：ナデ	口縁部に２条の擬凹線
-2	〃	ＳＤ０２	須恵器	坏身				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-3	〃	ＳＤ０２	須恵器	坏		(9.4)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部付高台
-4	〃	ＳＤ０２	須恵器	瓏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に刺突文、穿孔、２条の沈線
-5	〃	ＳＤ０２	須恵器	高坏		(8.5)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-6	〃	ＳＤ０２	陶器	埦	(13.1)			内：施釉 外：施釉	
-7	〃	ＳＤ０２	肥前系磁器	碗		(4.1)		内：施釉 外：施釉、露胎	高台外側周辺に染付 内面見込に蛇ノ目釉ハギ
11-1	〃	ＳＤ０１	須恵器	坏身	(12.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-2	〃	ＳＤ０１	須恵器	瓶				内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ、ナデ	体部中程で把手が珠文状に形骸化
12-1	〃	ＳＤ０６	土師器	甕				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-2	〃	ＳＤ０６	土師器	甕				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-3	〃	ＳＤ０６	土師器	高坏				内：不明 外：不明	器底部に円盤充填
-5	〃	ＳＤ０６	須恵器	坏身	(13.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	
-6	〃	ＳＤ０６	須恵器	高坏	17.4	(11.6)	12.7	内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部に２条の沈線及び１条の沈線、２段２方向の透かし（上段線状、下段台形）
14-1	〃	ＳＤ０３	弥生土器	壷		6.0		内：不明 外：不明	
-2	〃	ＳＤ０３	土師器	甕				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-3	〃	ＳＤ０３	土師器	甕				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-4	〃	ＳＤ０３	土師器	甕				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-5	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	18.4			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-6	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	(18.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-7	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	(22.8)			内：ヘラケズリ 外：ナデ	口縁部内面にハケ目？
-8	図版20	ＳＤ０３	土師器	甕	20.2			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-9	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	21.8		(25.3)	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-10	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	23.8		28.8	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	頸部に粘土の接合痕
-11	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	26.5			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
15-1	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	24.6			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-2	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	(22.6)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-3	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	24.5			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-4	図版21	ＳＤ０３	土師器	甕	19.5		24.3	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	口縁部外面及び体部外面に多量の煤付着
-5	図版20	ＳＤ０３	土師器	甕	(27.4)			内：ナデ 外：ナデ	甑の可能性もあり
-6	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	(25.6)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	頸部外面及び肩部外面の間に界線
-7	図版21	ＳＤ０３	赤彩土器	甕	16.7			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	口縁部内外面及び体部外面に赤彩
-8	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	29.6			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	口縁部外面のナデ調整が粗い
-9	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	23.5		20.3	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-10	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	26.1		32.7	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-11	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	(21.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-12	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	17.9		15.2	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
15-13	図版22	ＳＤ０３	土師器	甕	26.7			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	口縁部外面及び体部外面に煤付着
-14	図版21	ＳＤ０３	土師器	甕	(32.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-15	図版22	ＳＤ０３	土師器	甕	(31.6)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-16	〃	ＳＤ０３	土師器	甑	28.6			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-17	〃	ＳＤ０３	土師器	甕	12.8			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
16-1	〃	ＳＤ０３	土師器	竈				内：ナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ、指頭圧痕 外：ナデ、ヘラミガキ、指頭圧痕	
-2	〃	ＳＤ０３	土師器	竈				内：ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕 外：ナデ、指頭圧痕、ハケ目	
-3	〃	ＳＤ０３	土師器	竈				内：ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕 外：ナデ、指頭圧痕	
-4	図版23	ＳＤ０３	土師器	竈				内：ヘラケズリ 外：ナデ	外面に庇の貼付痕
-5	〃	ＳＤ０３	土師器	竈				内：ヘラケズリ 外：ナデ	底部平坦面に成形台の痕跡
-6	図版22	ＳＤ０３	土師器	竈				内：ヘラケズリ 外：ナデ	底部平坦面に成形台の痕跡
-7	図版23	ＳＤ０３	土師器	竈	(30.8)			内：ナデ、ヘラケズリ、ハケ目 外：ナデ	
-8	〃	ＳＤ０３	土師器	竈				内：ナデ、ヘラケズリ、ハケ目 外：ナデ	
-9	〃	ＳＤ０３	土師器	坏	15.2		5.5	内：ナデ、指頭圧痕 外：ナデ、指頭圧痕、ハケ目	
-10	〃	ＳＤ０３	土師器	高坏		14.0		内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-11	〃	ＳＤ０３	土師器	高坏		12.0		内：ナデ 外：ナデ	裾部外面に１条の稜
17-1	〃	ＳＤ０３	土師器	甑		(14.6)		内：ハケ目、ヘラケズリ 外：ハケ目	裾部外面赤焼
-2	〃	ＳＤ０３	土師器	甑	29.5	11.0	25.0	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	裾部２方向に穿孔
-3	〃	ＳＤ０３	土師器	甑		12.4		内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	裾部２方向に穿孔
-4	〃	ＳＤ０３	土師器	甑	(31.8)	(14.0)	26.1	内：ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	裾部に穿孔
-5	図版24	ＳＤ０３	土師器	甕	31.6		23.0	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	
-8	〃	ＳＤ０３	土師器	坏	13.1		4.0	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	
-9	〃	ＳＤ０３	土師器	坏	16.6		5.0	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ハケ目、指頭圧痕	
-10	〃	ＳＤ０３	赤彩土器	坏	18.0		7.7	内：ナデ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	内面に暗文 内外面に赤彩
-11	〃	ＳＤ０３	赤彩土器	高坏	(16.2)			内：ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ 外：ヘラミガキ、指頭圧痕、ハケ目	器部内面見込中央凹む 内外面に赤彩
-12	〃	ＳＤ０３	赤彩土器	高坏	(15.1)	(9.7)	10.9	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、指頭圧痕	内外面に赤彩
-13	〃	ＳＤ０３	赤彩土器	高坏	16.4			内：ナデ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	内外面に赤彩
-14	〃	ＳＤ０３	赤彩土器	高坏	15.8	10.7	12.3	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	内外面に赤彩
-15	〃	ＳＤ０３	赤彩土器	高坏	16.0	12.1	12.0	内：ナデ 外：ナデ	脚部外面にハケ目？及び１条の沈線 内外面に赤彩
-16	図版23	ＳＤ０３	赤彩土器	高坏	(16.9)			内：ナデ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	内外面に赤彩
-17	図版24	ＳＤ０３	赤彩土器	高坏				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、指頭圧痕	裾部外面に１条の沈線 器部外面・脚部外面に赤彩
-18	〃	ＳＤ０３	赤彩土器	高坏				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ヘラミガキ、指頭圧痕	器部内外面及び脚部外面に赤彩 器部内面見込ヘラミガキの可能性あり
-19	〃	ＳＤ０３	須恵器	甕or高坏	(12.3)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	外面にヘラ状工具痕
-20	〃	ＳＤ０３	須恵器	甕				内：回転ナデ 外：回転ナデ	頸部上に波状文及び１条の沈線
-21	〃	ＳＤ０３	須恵器	坏蓋	(11.7)		(4.1)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	端部内側に１条の沈線 肩部外面に１条の稜
-22	〃	ＳＤ０３	須恵器	坏身	12.2		4.0	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	
-23	〃	ＳＤ０３	須恵器	坏身	12.2		4.4	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
17-24	図版24	ＳＤ０３	須恵器	坏身	(11.8)		(3.4)	内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-25	〃	ＳＤ０３	須恵器	高坏	(15.0)	(10.7)	10.7	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	器部外面に１条の沈線 脚部２方向に三角透かし
-26	〃	ＳＤ０３	須恵器	高坏		(9.6)		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部２方向に線状透かし
-27	〃	ＳＤ０３	須恵器	高坏				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部３方向に透かし
-28	〃	ＳＤ０３	須恵器	高坏		(10.0)		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部２方向に台形透かし
-29	〃	ＳＤ０３	須恵器	高坏	(14.4)	10.2	(8.4)	内：回転ナデ 外：回転ナデ	瓦質土器の可能性あり 裾部外面に飛鉋状工具痕 裾部内面に製作者の指紋
18-1	図版25	大溝０１	土師器	甕or甑				内：ナデ 外：ナデ	
-2	〃	大溝０１	土師器	甕or甑				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-3	〃	大溝０１	土師器	竈				内：調整不明 外：調整不明	
-5	〃	大溝０１	赤彩土器	高坏		(12.0)		内：ナデ 外：ナデ	外面に赤彩が少量残る
-6	〃	大溝０１	須恵器	坏	(11.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-7	〃	大溝０１	須恵器	瓶				内：回転ナデ 外：回転ナデ	体部に穿孔 体部外面に刺突文及び２条の沈線
20-1	〃	ＳＢ０１	土師器	甕or甑				内：ナデ 外：ナデ	
-2	〃	ＳＢ０１	土師器	甕or甑				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-3	〃	ＳＢ０１	赤彩土器	坏or高坏	(14.3)			内：ナデ 外：ナデ	内面に赤彩残る
24-1	〃	ＳＢ０４	土師器	甕	(15.6)			内：ナデ 外：ナデ	
-2	〃	ＳＢ０４	須恵器	坏身	(13.5)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に自然釉付着
-3	〃	ＳＢ０４	須恵器	高坏			(10.8)	内：回転ナデ 外：回転ナデ	
26-1	〃	ＳＢ０５	須恵器	坏身	(10.8)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
28-1	〃	ＳＢ０６	須恵器	坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-2	〃	ＳＢ０６	須恵器	坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-3	〃	ＳＢ０６	須恵器	坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	
31-1	〃	ＳＢ０８	弥生土器	壺		(6.6)		内：ナデ 外：ナデ、指頭圧痕	
-2	〃	ＳＢ０８	須恵器	坏蓋	(13.3)		(4.9)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	肩部外面に２条の沈線
-3	〃	ＳＢ０８	須恵器	坏身				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-4	〃	ＳＢ０８	須恵器	高坏		(10.4)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部に透かしあり
35-1	〃	ＳＢ１１	須恵器	坏	(9.4)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-2	〃	ＳＢ１１	須恵器	把手付瓶				内：回転ナデ 外：回転ナデ	肩部と体部の間に界線 肩部～体部に粘土紐の把手
37-1	〃	ＳＢ１２	土師器	甕				内：ナデ 外：ナデ	
39-1	〃	ＳＢ１３	須恵器	坏身				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
42-1	〃	ＳＢ１５	赤彩土器					内：ナデ 外：ナデ	赤彩あり
45-1	〃	ＳＡ０１	弥生土器	壷or甕				内：ナデ 外：ハケ目	
50-1	〃	ＳＥ０１	赤彩土器	甕				内：ナデ 外：ナデ	内面に赤彩
-2	〃	ＳＥ０１	土師器	甕	(16.4)			内：ナデ 外：ナデ	
-3	〃	ＳＥ０１	土師器	甕	(14.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-4	〃	ＳＥ０１	土師器	甕				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	肩部外面にヘラ状工具痕
-5	〃	ＳＥ０１	土師器	竈				内：ナデ 外：ハケ目、指頭圧痕	断面に粘土の接合痕
-6	〃	ＳＥ０１	須恵器	蓋	(10.2)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
50-7	図版25	ＳＥ０１	須恵器	高坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部に透かしあり
52-1	図版26	ＳＸ０４	土師器	竈				内：ヘラミガキ、ヘラケズリ 外：調整不明	庇を体部に後付
-2	〃	ＳＸ０４	土師器	竈				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-3	〃	ＳＸ０４	土師器	竈				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-4	〃	ＳＸ０４	須恵器	高坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部に透かしあり
53-1	図版25	ＳＸ０５	須恵器	高坏	(16.2)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
54-1	図版26	第②層	須恵器	甕	(8.5)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	口縁部外面下に１条の稜
-2	〃	第②層	須恵器	坏		(9.5)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部に静止糸切後、付け高台
-3	〃	第②層	白磁	碗	(10.3)			内：施釉 外：施釉	口縁部端部口禿
-4	〃	第②層	青磁	碗	(13.6)			内：施釉 外：施釉	外面に雷文
-5	〃	第②層	青磁	碗	(15.3)			内：施釉 外：施釉	外面に雷文
-6	〃	第②層	備前焼	甕				内：ナデ 外：ナデ	口縁部玉縁状
-7	〃	第②層	在地土器	火鉢or香炉	(14.7)	(13.6)	4.0	内：回転ナデ 外：ヘラミガキ、スタンプ文	
-8	〃	第②層	青花	小皿	(9.4)	(4.4)	2.3	内：施釉 外：施釉、露胎	内外面染付 高台畳付釉ハギ
-9	〃	第②層	肥前系陶器	埦		(3.9)		内：施釉 外：露胎	内面見込胎土目積 底部削り出し三日月高台
55-1	〃	第③層	須恵器	坏		6.4		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底部付け高台
-2	〃	第③層	青磁	碗		(5.1)		内：施釉 外：施釉、露胎	同安窯系 釉薬貫入入る、底部露胎 内面見込に施文
-3	〃	第③層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	外面に鎬蓮弁
-4	〃	第③層	在地土器	火鉢or香炉		(13.6)		内：回転ナデ 外：ヘラミガキ、スタンプ文	
56-1	〃	第④層	弥生土器	壷or甕				内：ナデ 外：ナデ	口縁部端部及び口縁部内面に各２条の凹線
-2	〃	第④層	弥生土器	壷or甕				内：ナデ 外：ナデ	口縁部端部及び口縁部内面に各１条の凹線
-3	〃	第④層	土師器	甕or甑	(26.2)			内：ナデ 外：ナデ	
-4	〃	第④層	須恵器	坏		7.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部回転糸切後、付け高台 俯瞰形態が楕円状に再加工
-5	〃	第④層	土師質土器	小皿				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-6	図版27	第④層	白磁	水注	(13.0)			内：施釉 外：施釉	釉薬貫入入る 威信財？
-7	〃	第④層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	無文端反碗
-8	〃	第④層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	外面に雷文
-9	〃	第④層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	釉薬貫入入る 外面に形骸化した蓮弁文
-10	〃	第④層	青磁	碗		(5.2)		内：施釉 外：施釉、露胎	高台畳付及び高台見込露胎 内面見込に施文
-11	〃	第④層	瓷器系陶器	壷or甕				内：ナデ、指頭圧痕 外：ナデ	外面粘土紐貼付、下部に１条の稜、稜には自然釉付着
-12	〃	第④層	瓷器系陶器	壷				内：ナデ、指頭圧痕 外：ナデ	外面に窯印？及び把手の痕跡
-13	〃	第④層	備前焼	擂鉢				内：ナデ 外：ナデ	胎土ほぼ還元焼成 内面に擂目、外面に重ね焼痕 注口あり
-14	〃	第④層	備前焼	甕				内：ナデ、指頭圧痕 外：調整不明	肩部外面に多量の自然釉付着
-15	〃	第④層	中国磁器	天目茶碗		3.1		内：施釉（鉄釉） 外：施釉（鉄釉）、露胎	底部削り出し高台
-16	〃	第④層	京焼風陶器	埦		(4.3)		内：施釉 外：施釉、露胎	釉薬貫入入る 高台畳付及び高台見込露胎
-17	〃	第④層	肥前系陶器	捏鉢				内：施釉／ハケ目 外：露胎／回転ヘラ	
-18	〃	第④層	肥前系磁器	碗	(10.0)			内：施釉 外：施釉	口縁部端部釉ハギ 外面に染付

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
56-19	図版27	第④層	磁器	碗				内：施釉 外：施釉	青磁の２次焼成の可能性あり
-20	〃	第④層	磁器	碗		(3.4)		内：施釉 外：施釉	
57-1	〃	第④－１層	弥生土器	壺				内：ナデ 外：ナデ	口縁部端部に１条の凹線
-2	〃	第④－１層	弥生土器					内：ナデ、ハケ目 外：ナデ	口縁部端部に斜格子文
-3	〃	第④－１層	弥生土器	器台				内：ヘラケズリ 外：ナデ	
-4	〃	第④－１層	土師器	甑				内：調整不明 外：ヘラミガキ	把手
-5	〃	第④－１層	土師器	高坏		(8.7)		内：調整不明 外：ヘラミガキ	脚柱内面に穿孔
-6	〃	第④－１層	土師器	高坏				内：調整不明 外：調整不明	
-11	〃	第④－１層	土師器	製塩土器				内：ナデ、指頭圧痕 外：ナデ	
-12	〃	第④－１層	赤彩土器	高坏				内：調整不明 外：ハケ目	外面に赤彩
-13	〃	第④－１層	赤彩土器	高坏				内：調整不明 外：調整不明	内外面に赤彩
-14	〃	第④－１層	須恵器	坏身	(9.9)		3.0	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	
-15	〃	第④－１層	須恵器	蓋	(11.0)		2.1	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	扁平宝珠状摘み貼付
-16	〃	第④－１層	須恵器	蓋				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-17	〃	第④－１層	須恵器	蓋	(17.4)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部内外面酸化焼成
-18	〃	第④－１層	須恵器	坏		(12.2)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面回転糸切後、付け高台、高台端部に１条の沈線
-19	〃	第④－１層	須恵器	坏	(13.2)	(9.0)	3.8	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ	
-20	〃	第④－１層	須恵器	坏	(16.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-21	〃	第④－１層	須恵器	坏	(14.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-22	〃	第④－１層	須恵器	坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-23	〃	第④－１層	須恵器	坏		(9.7)		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	
-24	〃	第④－１層	須恵器	皿	(15.0)	(11.3)	2.1	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	
-25	〃	第④－１層	須恵器	皿	(19.2)	(15.2)	2.2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-26	〃	第④－１層	須恵器	平瓶				内：回転ナデ 外：回転ナデ	ミニチュア土器
58-1	〃	第④－１層	須恵器	壷or甕				内：ナデ、指頭圧痕 外：ナデ	
-2	〃	第④－１層	須恵器	瓶				内：回転ナデ 外：回転ナデ	頸部内面に絞り痕 外面に３条以上の沈線
-3	〃	第④－１層	須恵器	瓶				内：回転ナデ 外：回転ナデ	接合痕残る
-4	〃	第④－１層	須恵器	瓶		5.8		内：回転ナデ 外：回転ナデ、カキ目	
-5	〃	第④－１層	須恵器	瓶		6.6		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底部と体部の界線が明確
-6	〃	第④－１層	須恵器	瓶				内：回転ナデ 外：回転ナデ	肩部と体部の間に界線 肩部に灰被る
-7	図版28	第④－１層	須恵器	瓶				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底部付け高台 肩部と体部の界線が明確 体部外面に刺突文及び２条の沈線
-9	〃	第④－１層	須恵器	高坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部に小円形状透かし
-10	〃	第④－１層	須恵器	高坏		(9.5)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部に透かしあり 外面に２条の沈線
-11	図版27	第④－１層	須恵器	高坏		(8.4)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部に小円形状透かし上下２段
-12	図版28	第④－１層	須恵器	高坏		10.6		内：調整不明 外：調整不明	器壁外面に１条の沈線 脚部２方向に台形透かし
-13	〃	第④－１層	須恵器	横瓶				内：青海波、ナデ 外：平行タタキ、カキ目	
-14	〃	第④－１層	土師質土器	小皿		(5.0)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面に回転糸切
-15	〃	第④－１層	土師質土器	坏		5.2		内：回転ナデ 外：回転ナデ	

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
58-16	図版28	第④－１層	土師質土器	坏		5.6		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面に回転糸切
-17	〃	第④－１層	白磁	小皿	(10.6)			内：施釉 外：施釉	器壁と内面見込の間に界線
-18	〃	第④－１層	白磁	四耳壺				内：露胎 外：施釉	肩部内面に若干の釉が流れ込む
-19	〃	第④－１層	白磁	碗		4.9		内：施釉 外：施釉	釉薬に若干貫入入る 内面見込５箇所に砂目積み
-20	〃	第④－１層	白磁	壺				内：施釉 外：施釉	外面釉薬に若干貫入入る
-21	〃	第④－１層	青磁	碗		4.6		内：施釉 外：施釉、露胎	高台畳付及び高台内側釉ハギ
-22	〃	第④－１層	青磁	碗		5.0		内：施釉 外：施釉、露胎	高台畳付及び高台内側釉ハギ 釉薬に貫入入る
-23	〃	第④－１層	青磁	稜花皿	(13.6)			内：施釉 外：施釉	釉薬に貫入入る 内面施文、口縁部端部面取り 器壁外面に１条の界線
-24	〃	第④－１層	青磁	稜花皿				内：施釉 外：施釉	釉薬に貫入入る 内面施文、口縁部端部面取り
-25	〃	第④－１層	青磁	碗		(5.5)		内：施釉 外：施釉、露胎	内面見込及び外面に施文 鎬蓮弁文 高台内側露胎
-26	〃	第④－１層	青磁	碗	(16.0)			内：施釉 外：施釉	外面に施文 口縁部端反
-27	〃	第④－１層	青磁	碗	(14.4)			内：施釉 外：施釉	口縁部端反
-28	〃	第④－１層	瓷器系陶器	壷or甕				内：指頭圧痕 外：調整不明	内外面に自然釉 器壁外面及び底部外面界線明確
59-1	〃	第④－１層	備前焼	擂鉢	(29.9)			内：ナデ 外：ナデ	内面に１単位１１条以上の擂目 口縁部に注口
-2	〃	第④－１層	備前焼	甕		(24.4)		内：ナデ 外：ナデ、ヘラケズリ	底部内面に灰被る 内外面及び外面に粘土の接合痕
-3	〃	第④－１層	瀬戸焼	皿		(6.2)		内：施釉（灰釉） 外：施釉（灰釉）	高台外側に釉溜 釉薬に貫入入る 高台見込に粘土塊
-4	〃	第④－１層	瀬戸焼	皿		(5.4)		内：施釉（灰釉） 外：施釉（灰釉）	高台外側に釉溜 釉薬に貫入入る
-5	〃	第④－１層	瀬戸焼	天目茶埦	(12.4)			内：施釉（鉄釉） 外：施釉（鉄釉）、露胎	
-6	〃	第④－１層	中国磁器	天目茶碗				内：施釉（鉄釉） 外：施釉（鉄釉）、露胎	
-7	〃	第④－１層	瓦質土器	擂鉢				内：調整不明 外：調整不明	内面に擂目
-8	〃	第④－１層	瓦質土器	火鉢		(13.9)		内：回転ナデ 外：ハケ目	
-9	〃	第④－１層	在地土器	擂鉢	(27.6)			内：ナデ 外：ナデ	内面に擂目
-10	〃	第④－１層	在地土器	擂鉢		(12.3)		内：ナデ 外：ナデ	
-11	〃	第④－１層	在地土器	香炉				内：回転ナデ、指頭圧痕 外：回転ナデ、スタンプ文	
-12	〃	第④－１層	在地土器	香炉		(14.0)		内：回転ナデ 外：回転ナデ、スタンプ文	底部外面に小型の脚を貼付
-13	〃	第④－１層	在地土器	火鉢				内：調整不明 外：ヘラミガキ	
-14	〃	第④－１層	青花	皿				内：施釉 外：施釉、露胎	内外面に染付 高台釉ハギ
60-1	図版29	第⑤層	弥生土器	高坏				内：ヘラケズリ 外：調整不明	外面に２１条以上の擬凹線
-2	〃	第⑤層	土師器					内：ナデ 外：ナデ	
-3	〃	第⑤層	土師器		2.9		3.0	内：ナデ 外：ナデ、指頭圧痕	ミニチュア土器 手捏成形
-4	〃	第⑤層	土師器	低脚坏				内：調整不明 外：ナデ	脚部に小円形状の穿孔
-5	〃	第⑤層	土師器	甕	(22.5)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-6	〃	第⑤層	土師器	甕				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-7	〃	第⑤層	土師器	甑				内：調整不明 外：ヘラミガキ	扁平角型
-8	〃	第⑤層	土師器	甑				内：調整不明 外：ヘラミガキ、指頭圧痕	柱状型 粘土の接合痕残る

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
60-9	図版29	第⑤層	土師器	甑				内：調整不明 外：ヘラミガキ	角型
-10	〃	第⑤層	土師器	高坏				内：調整不明 外：調整不明	
-11	〃	第⑤層	土師器	高坏				内：指頭圧痕 外：指頭圧痕	
-12	〃	第⑤層	土師器	高坏		(12.5)		内：ナデ 外：ナデ、ヘラミガキ	
-18	〃	第⑤層	土師器	竈			29.8	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	庇外面にヘラミガキ調整？
61-1	〃	第⑤層	赤彩土器	高坏				内：調整不明 外：調整不明	内外面に赤彩
-2	〃	第⑤層	須恵器	坏蓋	(14.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	肩部外面に１条の稜
-3	〃	第⑤層	須恵器	坏蓋	(12.8)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	
-4	〃	第⑤層	須恵器	坏蓋	(9.8)		3.6	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部外面にヘラ記号
-5	〃	第⑤層	須恵器	坏身	(13.0)		2.9	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	
-6	〃	第⑤層	須恵器	坏身	(11.3)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-7	〃	第⑤層	須恵器	坏身	(12.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-8	〃	第⑤層	須恵器	瓶		6.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面に回転or静止糸切 内面見込が臍状にナデ上がる
-9	〃	第⑤層	須恵器	坏	(11.0)	6.6	4.3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面に回転糸切
-10	〃	第⑤層	須恵器	坏		6.5		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	底部外面に回転糸切
-11	〃	第⑤層	須恵器	坏		(7.4)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面付け高台
-12	〃	第⑤層	須恵器	坏		(9.7)		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	底部外面付け高台
-13	〃	第⑤層	須恵器	坏	(9.9)	(6.9)	4.6	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	底部外面付け高台
-14	〃	第⑤層	須恵器	坏		8.4		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	底部外面回転ヘラ切り後、付け高台、高台畳付に沈線
-15	〃	第⑤層	須恵器	坏		8.0		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底部外面回転ヘラ後、付け高台
-16	〃	第⑤層	須恵器	坏		8.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	底部外面回転ヘラ切り後、付け高台、高台見込にヘラ記号
-17	〃	第⑤層	須恵器	坏		6.4		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底部外面回転ヘラ後、付け高台、高台畳付に凹面
-18	図版30	第⑤層	須恵器	坏	(16.2)	10.6	6.2	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	底部外面回転糸切後、付け高台
-19	図版29	第⑤層	須恵器	盤	(17.4)	11.4	4.2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面回転糸切後、付け高台
-20	〃	第⑤層	須恵器	鉄鉢形須恵器	(15.8)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	口唇部内面に４条の沈線
-21	図版30	第⑤層	須恵器	坏	(13.1)	(10.2)	3.1	内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面に回転糸切
-22	〃	第⑤層	須恵器	坏	(12.6)	(8.5)	3.8	内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面に回転ヘラ切り？
-23	〃	第⑤層	須恵器	皿	(15.2)	(12.4)	2.1	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	底部外面回転糸切後、回転ナデ 器壁と底部の界線が明確
-24	図版29	第⑤層	須恵器					内：回転ナデ 外：ナデ	把手貼付
-25	〃	第⑤層	須恵器	鉢		(10.8)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面回転糸切 外面に刺突状工具痕
-26	〃	第⑤層	須恵器	坏or壷	(15.5)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-27	図版30	第⑤層	須恵器	円面硯	(11.5)	(14.0)	4.7	内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部内面見込に多量の自然釉 脚部に２種類の透かし
62-1	〃	第⑤層	須恵器	蓋	13.7		5.3	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部外面に小型の摘み貼付
-2	〃	第⑤層	須恵器	蓋				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部外面にヘラ削り出しによる小型の摘み
-3	〃	第⑤層	須恵器	蓋				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部外面に摘み貼付
-4	〃	第⑤層	須恵器	蓋				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部外面に扁平宝珠状摘み貼付
-5	〃	第⑤層	須恵器	蓋				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部外面に扁平宝珠状摘み貼付
-6	〃	第⑤層	須恵器	蓋	14.4		3.3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	天井部外面に輪状摘み貼付

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
62-7	図版30	第⑤層	須恵器	蓋				内：回転ナデ 外：回転ナデ	天井部外面に輪状摘み貼付 摘み端部に沈線
-8	〃	第⑤層	須恵器	瓶		4.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	
-9	〃	第⑤層	須恵器	壷				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-10	〃	第⑤層	須恵器	壷	(7.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	口縁部に重ね焼痕
-11	〃	第⑤層	須恵器	甕		3.9		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	肩部外面に刺突文及び上下各１条の沈線 肩部～体部の界線上に穿孔
-12	〃	第⑤層	須恵器	甕				内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	内面に粘土塊付着 外面にタール付着
-13	〃	第⑤層	須恵器	高坏				内：回転ナデ、指頭圧痕 外：回転ナデ、指頭圧痕	
-14	〃	第⑤層	須恵器	高坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-15	〃	第⑤層	須恵器	高坏				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	
-16	〃	第⑤層	須恵器	高坏		9.8		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	
-17	〃	第⑤層	須恵器	高坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部上部２方向に線状透かし 脚部下部透かし？及び２条の沈線
-18	〃	第⑤層	須恵器	高坏				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部２方向に線状透かし 器部～脚部外面ヘラ記号
-19	〃	第⑤層	須恵器	高坏				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部３方向に線状透かし
-20	〃	第⑤層	須恵器	高坏				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部２方向に透かし
-21	〃	第⑤層	須恵器	高坏		(8.7)		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部２方向に線状透かし
-22	〃	第⑤層	須恵器	高坏		8.4		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	
-23	〃	第⑤層	須恵器	高坏	(16.7)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部２方向に線状透かし
-24	〃	第⑤層	須恵器	高坏		(10.1)		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部に２条の沈線、２段の透かし（上段線状、下段台形） 器部内面にヘラ記号
-25	〃	第⑤層	須恵器	高坏				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部２方向に台形透かし 透かし下方に２条の沈線
-26	〃	第⑤層	須恵器	高坏	(23.4)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	
-27	〃	第⑤層	須恵器	平瓶		(13.7)		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ、回転ヘラ	口縁部別途成形後貼付
63-1	〃	第⑤層	須恵器	甕				内：ナデ 外：ナデ	
-2	〃	第⑤層	須恵器	甕及び坏				甕内：青海波 甕外：平行タタキ	高台付坏と融着
-3	〃	第⑤層	須恵器	甕				内：車輪文 外：平行タタキ	
-4	図版31	第⑤層	須恵器	甕	(20.2)			内：ナデ、青海波 外：ナデ、平行タタキ	肩部外面に小円形状のスタンプ文及び多量の自然釉
-5	図版30	第⑤層	須恵器	甕				内：ナデ 外：ナデ	頸部下内面に粘土の接合痕
-6	図版31	第⑤層	須恵器	甕	21.0			内：ナデ、青海波 外：ナデ、平行タタキ、カキ目	
-7	図版30	第⑤層	須恵器	壷	(9.4)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に２条の沈線
-8	図版31	第⑤層	須恵器	甕ｏｒ壷		(10.5)		内：ナデ、青海波 外：ナデ、平行タタキ、回転ナデ	底部外面付け高台
-9	〃	第⑤層	須恵器	甕ｏｒ壷		(10.0)		内：ナデ 外：ナデ、平行タタキ、回転ナデ	底部外面付け高台
-10	図版30	第⑤層	須恵器	甕ｏｒ壷				内：ナデ、青海波 外：平行タタキ、カキ目	粘土の接合痕が残る
-11	〃	第⑤層	須恵器					内：ナデ 外：ナデ	内面に金属滓付着 外面に多量の裂痕 断面に空泡
-12	〃	第⑤層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	釉薬に貫入入る 外面に線描の鎬蓮弁 上層からの混入の可能性大
-13	〃	第⑤層	備前焼	擂鉢				内：ナデ 外：ナデ	内面に１単位１０条の擂目 上層からの混入の可能性大
64-1	図版31	第⑤層	瓦質土器	奈良火鉢浅鉢		(28.0)		内：ナデ 外：ナデ	底部外面に脚貼付 外面に１条の突帯貼付 上層からの混入の可能性大
65-1	〃	第⑤一０層	赤彩土器	甕	(20.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	外面に赤彩

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
65-2	図版31	第⑤一０層	土師器	甕	(21.2)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-3	〃	第⑤一０層	土師器	甕	(29.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-4	〃	第⑤一０層	土師器	竈				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-5	〃	第⑤一０層	土師器	高坏				内：ナデ 外：ナデ	脚部外面にヘラミガキ？
-6	〃	第⑤一０層	土師器	高坏				内：調整不明 外：調整不明	
-7	〃	第⑤一０層	赤彩土器	高坏		9.5		内：ヘラケズリ 外：ハケ目	脚部外面に赤彩
-8	〃	第⑤一０層	赤彩土器	高坏				内：調整不明 外：ハケ目	器部内外面に赤彩
-12	〃	第⑤一０層	土師器	甑？				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-13	〃	第⑤一０層	赤彩土器	高坏				内：調整不明 外：ハケ目	外面に赤彩
-14	〃	第⑤一０層	赤彩土器	高坏				内：ヘラケズリ 外：調整不明	外面に赤彩
-15	〃	第⑤一０層	須恵器	坏蓋				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部外面にヘラ記号 肩部外面に１条の稜
-16	〃	第⑤一０層	須恵器	坏蓋	(12.9)		3.5	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	肩部外面に１条の稜 口縁部端部内側に沈線
-17	〃	第⑤一０層	須恵器	坏蓋	(12.8)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	肩部外面に１条の稜 内側に沈線
-18	〃	第⑤一０層	須恵器	坏身	(9.4)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-19	〃	第⑤一０層	須恵器	坏身	(11.4)		2.8	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内面見込にヘラ記号
-20	〃	第⑤一０層	須恵器	坏身				内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	底部外面にヘラ記号
-21	〃	第⑤一０層	須恵器	高坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面にヘラ記号
-22	〃	第⑤一０層	須恵器	高坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部３方向に透かし
-23	〃	第⑤一０層	須恵器	坏		(7.3)		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	
-24	〃	第⑤一０層	須恵器	蓋	(16.6)		3.0	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部外面に扁平宝珠状摘み
-25	〃	第⑤一０層	須恵器	坏		(10.2)		内：調整不明 外：回転ナデ	底部外面付け高台
66-1	〃	第⑤一０層	須恵器	壺	(15.4)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-2	〃	第⑤一０層	須恵器	壺				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ	底部外面付け高台
-3	〃	第⑤一０層	土師質土器	坏		(8.6)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面付け高台
67-1	図版32	第⑤一１層	赤彩土器	高坏				内：ナデ 外：ハケ目	脚部内外面に赤彩
-2	〃	第⑤一１層	須恵器	瓏		5.2		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底部外面静止糸切
-3	〃	第⑤一１層	須恵器	坏蓋	(13.0)		4.0	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	肩部外面に１条の稜 口縁部内面に１条の沈線
-4	〃	第⑤一１層	須恵器	蓋	11.6		2.5	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	天井部外面に摘み
-5	〃	第⑤一１層	須恵器	皿	17.7	13.7	3.3	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	底部外面付け高台
-6	〃	第⑤一１層	須恵器	壺	(12.8)			内：回転ナデ、青海波 外：回転ナデ、カキ目、平行タタキ	
-7	〃	第⑤一１層	須恵器	瓶		(10.8)		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底部内面にハケ状の痕跡 肩部～体部、体部～底部の間に明確な界線 肩部に把手、多量の自然釉
-8	〃	第⑤一１層	須恵器	瓶		5.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	体部外面下方に飛鉋状の圧痕
68-1	〃	第⑤一２層	土師器	竈				内：ナデ 外：ナデ	
-2	〃	第⑤一２層	土師器	甕 or 甑	(26.8)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-3	〃	第⑤一２層	須恵器	坏	(16.7)	11.4	6.0	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底部外面付け高台
-4	〃	第⑤一２層	須恵器	坏	(11.8)	8.3	4.1	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底部外面付け高台 外面に自然釉付着
-5	〃	第⑤一２層	須恵器	坏		(7.3)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面付け高台
-6	〃	第⑤一２層	須恵器	高坏		8.6		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
69-1	図版32	第⑥層	土師器		(16.4)			内：ナデ 外：ナデ	
-2	〃	第⑥層	土師器	甕 or 壷	(16.6)			内：調整不明 外：ナデ	内：ハケ目調整？
-3	〃	第⑥層	土師器	甕				内：ナデ 外：ナデ	
-4	〃	第⑥層	土師器	甑				内：調整不明 外：ヘラミガキ	把手
-5	〃	第⑥層	土師器	竈				内：調整不明 外：調整不明	底部に工具痕
-6	〃	第⑥層	須恵器	坏蓋	(13.0)		3.9	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ、ハケ目、ナデ	外面に１条の稜
-7	〃	第⑥層	須恵器	坏蓋				内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に１条の稜
-8	〃	第⑥層	須恵器	坏蓋				内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	外面に１条の稜
-9	〃	第⑥層	須恵器					内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-10	〃	第⑥層	須恵器	高坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部３方向に線状透かし
-11	〃	第⑥層	須恵器	坏身	(10.6)		3.2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-12	〃	第⑥層	須恵器	坏		(6.6)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面付け高台
70-1	図版33	北側排水路	土師器	甕	(28.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-2	〃	北側排水路	土師器	甕	23.2			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-3	〃	北側排水路	土師器	甕	(25.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-5	〃	北側排水路	須恵器	坏蓋	(12.7)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に１条の稜
-6	〃	北側排水路	須恵器	坏身	(12.8)		3.5	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ	
71-1	〃	東側排水路	土師器	竈				内：ヘラケズリ 外：ハケ目	底部平坦面に成形台の痕跡
-2	〃	東側排水路	土師器	高坏				内：ヘラミガキ、ナデ 外：ヘラミガキ	
-3	〃	東側排水路	土師器	高坏		(8.6)		内：指頭圧痕 外：指頭圧痕	
-4	〃	東側排水路	土師器	甕				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-5	〃	東側排水路	土師器	甕	19.8		22.3	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-6	〃	東側排水路	土師器	甕	(23.2)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	体部外面に煤付着
-7	〃	東側排水路	土師器	甕	(24.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-8	〃	東側排水路	土師器	甕	(18.8)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-9	〃	東側排水路	土師器	甕	(29.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
72-1	図版34	東側排水路	土師器	甕	(29.3)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	口縁部内外面に煤付着
-2	〃	東側排水路	土師器	甕	(28.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	
-3	〃	東側排水路	土師器	甕	(28.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-4	〃	東側排水路	須恵器	坏身				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	底部外面にヘラ記号
-5	〃	東側排水路	須恵器	坏身				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	底部外面にヘラ記号
-6	〃	東側排水路	須恵器	坏				内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面付け高台
73-1	〃	南側排水路	土師器	甕	(13.6)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
74-1	〃	撹乱土	土師器	甕	(23.2)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	断面に粘土の接合痕
-2	〃	撹乱土	土師器	甕				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	
-3	〃	撹乱土	土師器	甑	(25.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-4	〃	撹乱土	土師器	高坏	14.9			内：ナデ 外：ナデ、ハケ目	
-5	〃	撹乱土	赤彩土器	高坏		11.4		内：ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	赤彩あり
-6	〃	撹乱土	須恵器	坏蓋	(10.0)		3.7	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
74-7	図版34	撹乱土	須恵器	坏蓋	(13.7)		3.9	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	
75-1	〃	造成土	弥生土器	高坏	(13.8)			内：ナデ 外：ナデ	外面に凹線
-2	〃	造成土	弥生土器					内：調整不明 外：ヘラミガキ	把手
-3	〃	造成土	土師器	甑				内：調整不明 外：ヘラミガキ	把手
-4	〃	造成土	土師器	甕	(29.7)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-5	〃	造成土	土師器	甕	(32.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-6	〃	造成土	須恵器	甕				内：ナデ、車輪文 外：ナデ、タタキ	
-7	〃	造成土	須恵器	坏or 袋物		6.2		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ	
-8	〃	造成土	青磁	碗	(18.4)			内：施釉 外：施釉	釉薬に貫入入る 内外面無文、口縁部端反
-9	〃	造成土	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	外面施文、口縁部端反
76-1	図版35	暗渠排水	須恵器	坏		8.3		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	
-2	〃	暗渠排水	土師質土器	小皿	(7.0)	5.2	1.8	内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部に静止糸切
77-1	〃	排土	土師器	甕or甑	(32.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-2	〃	排土	須恵器	瓶	(10.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に１条の沈線
-3	〃	排土	須恵器	坏身	(10.0)		3.6	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ	
78-1	〃	出土地不明	須恵器	瓶		3.9		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	肩部下に波状文及び穿孔
-2	〃	出土地不明	備前焼	擂鉢				内：ナデ 外：調整不明	内面に１単位６条以上の擂目
-3	〃	出土地不明	瀬戸焼	卸皿				内：施釉（灰釉）、露胎 外：施釉（灰釉）、露胎	釉薬に貫入入る

出土遺物観察表（土器以外）

挿図番号	写真	出土地点	種別	器種	縦長	横幅	肥厚	備考
12-4	図版19	ＳＤ０６	土師器	土製支脚				内：ヘラケズリ、外：ナデ、指頭圧痕
17-6	図版24	ＳＤ０３	土師器	土製支脚		10.3		内：ヘラケズリ、外：ヘラミガキ、指頭圧痕 穿孔は貫通
-7	〃	ＳＤ０３	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ、ハケ目 穿孔は貫通、突起２方向
18-4	図版25	大溝０１	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔
57-7	図版27	第④－１層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔
-8	〃	第④－１層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 底部繰込
-9	〃	第④－１層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ
-10	〃	第④－１層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔は貫通
58-8	〃	第④－１層	須恵器	土製円盤	6.3	6.2	1.5	内：回転ナデ、指頭圧痕 外：回転ナデ
59-15	図版28	第④－１層	布目瓦	丸瓦				凹面：布目 凸面：調整不明
-16	〃	第④－１層	布目瓦	平瓦				凹面：布目 凸面：縄タタキ、端角に押圧痕
-17	〃	第④－１層	土師器	土錘	3.6	1.5	1.5	外：ヘラミガキ
-18	〃	第④－１層	土師器	羽口				側面２か所に穿孔 多量の自然釉付着
-19	〃	第④－１層	石	砥石	5.0	5.0	1.2	４面以上を砥面として使用
-20	〃	第④－１層	石	石錘	6.9	4.7	4.3	楕円球状 中程で帯状に浅く繰込
60-13	図版29	第⑤層	土師器	土製支脚		(7.0)		内：ヘラケズリ
-14	〃	第⑤層	土師器	土製支脚		(11.1)		外：指頭圧痕
-15	〃	第⑤層	土師器	土製支脚				内：ナデ 外：ヘラミガキ
-16	〃	第⑤層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔は貫通
-17	〃	第⑤層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔は貫通、突起２方向
64-2	図版31	第⑤層	布目瓦	平瓦				凹面：布目 凸面：縄タタキ
-3	〃	第⑤層	布目瓦	丸瓦				凹面：布目 凸面：調整不明
-4	〃	第⑤層	石	砥石	6.9	3.7	2.6	１面を砥面として使用
-5	〃	第⑤層	石器	石斧	16.4	13.4	2.9	打製
65-9	〃	第⑤－０層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 底部上底
-10	〃	第⑤－０層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔は貫通、底部繰込
-11	〃	第⑤－０層	土師器	土製支脚		(16.6)		内：ナデ 外：ナデ、指頭圧痕
68-７	図版32	第⑤－２層	石	砥石	8.4	4.0	3.6	４面を砥面として使用
70-4	図版33	北側排水路	土師器	土製支脚		11.2	14.8	外：ヘラミガキ、指頭圧痕 穿孔あり、底部繰込
72-7	図版34	東側排水路	石	砥石	12.1	5.6	5.3	３面以上を砥面として使用

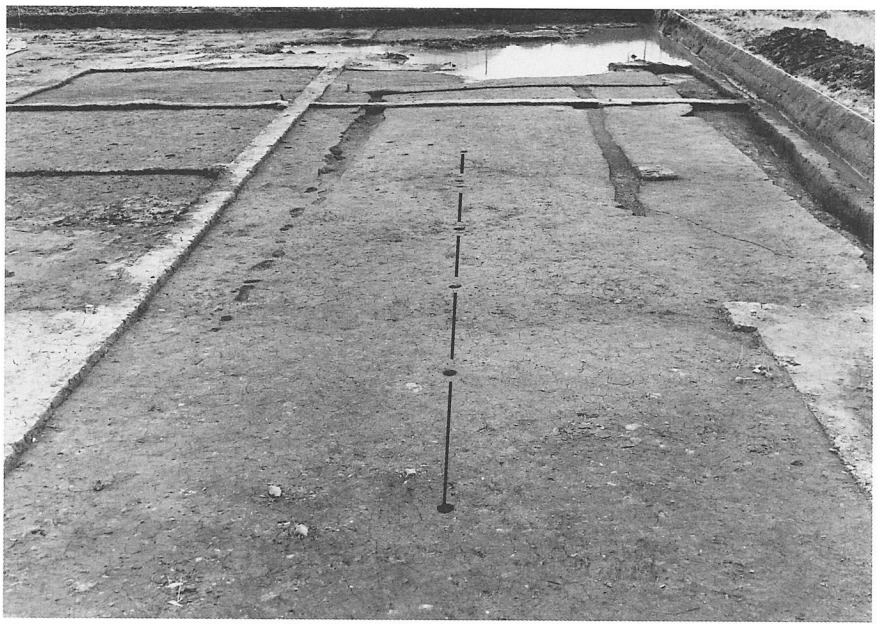
図版１

調査前風景

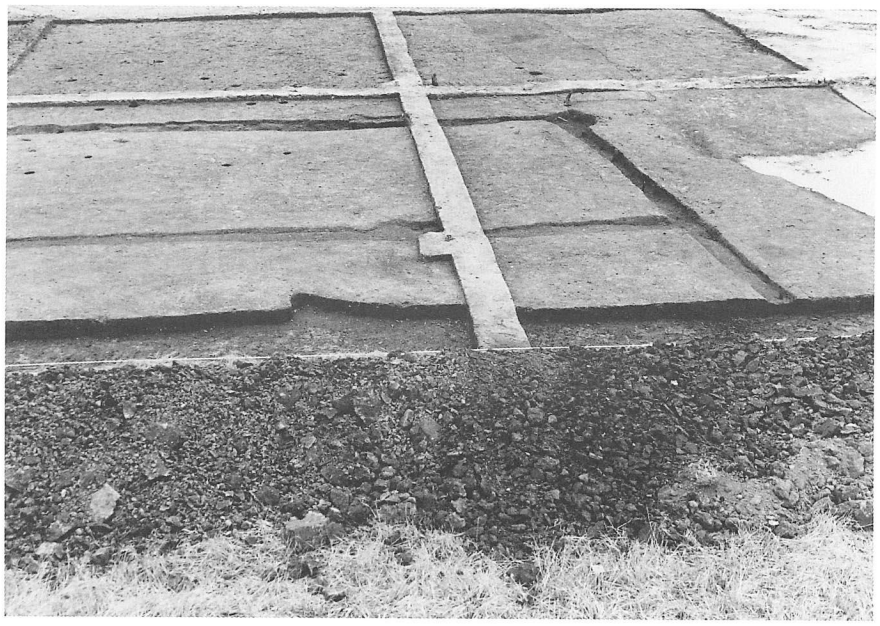
Ｄライン東側土層堆積状況

暗渠検出状況

図版２



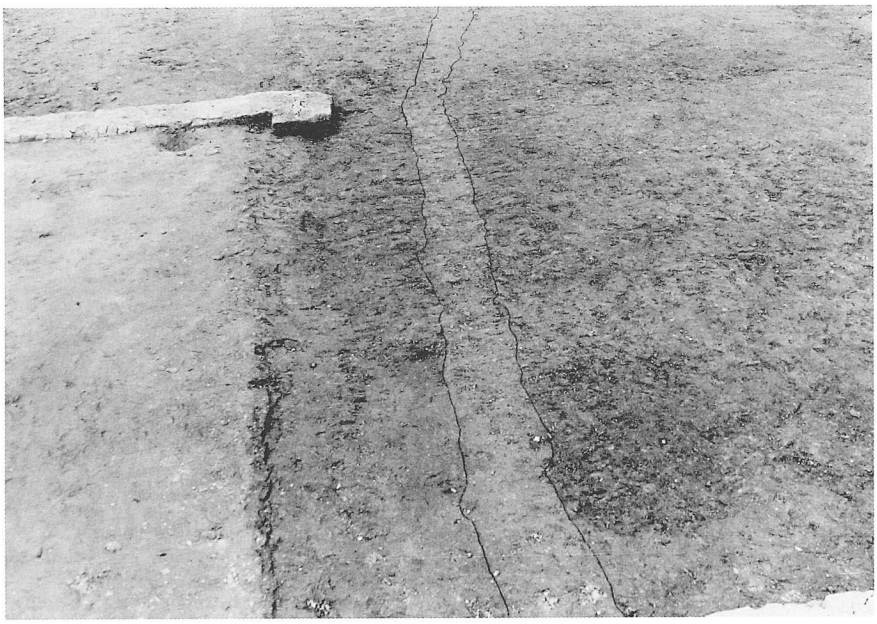
暗渠完掘状況１
（杭列はハデ木？）



暗渠完掘状況２

ＳＤ０２土層堆積状況

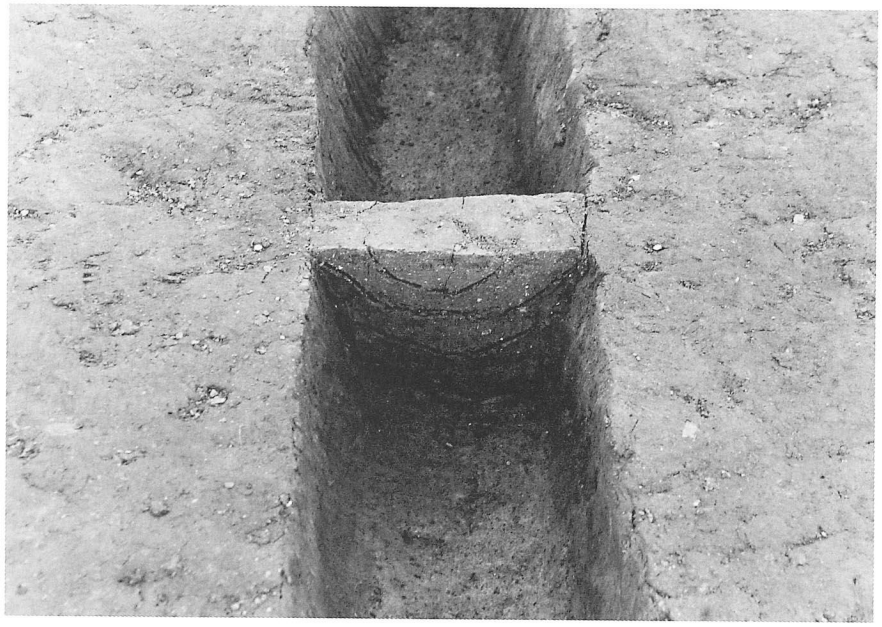
ＳＤ０２完掘状況



ＳＤ０１検出状況

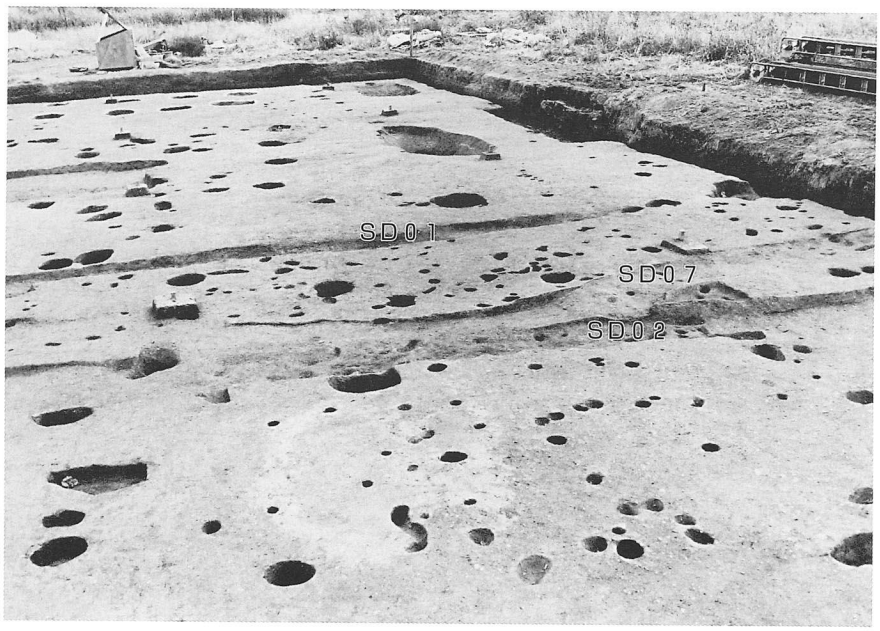
ＳＤ０１土層堆積状況１

図版４



ＳＤ０１土層堆積状況２

ＳＤ０１



ＳＤ０７完掘状況

ＳＤ０６土層堆積状況１

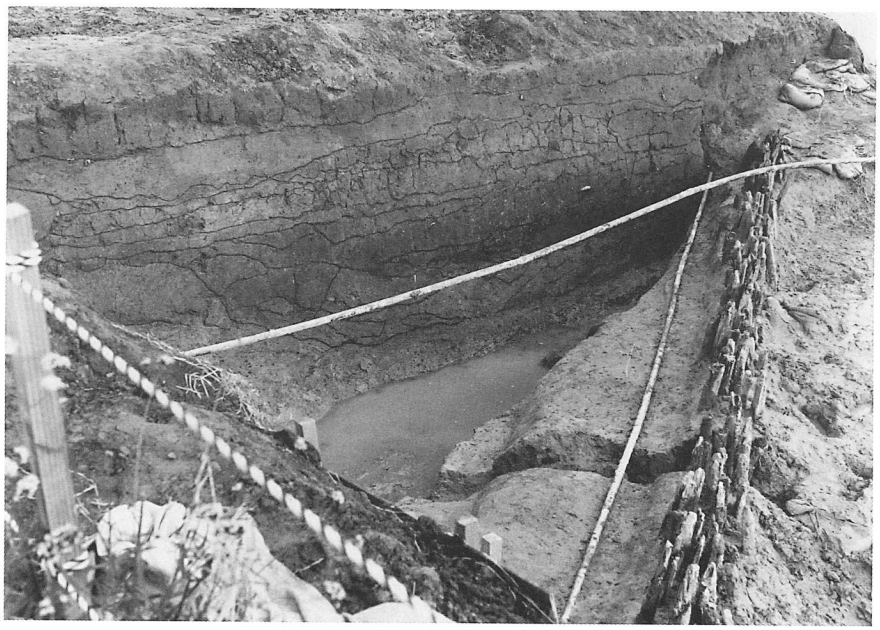
ＳＤ０６土層堆積状況２

ＳＤ０６遺物出土状況

図版 6

ＳＤ０６完掘状況

ＳＤ０３土層堆積状況１



ＳＤ０３土層堆積状況２

ＳＤ０３遺物出土状況１

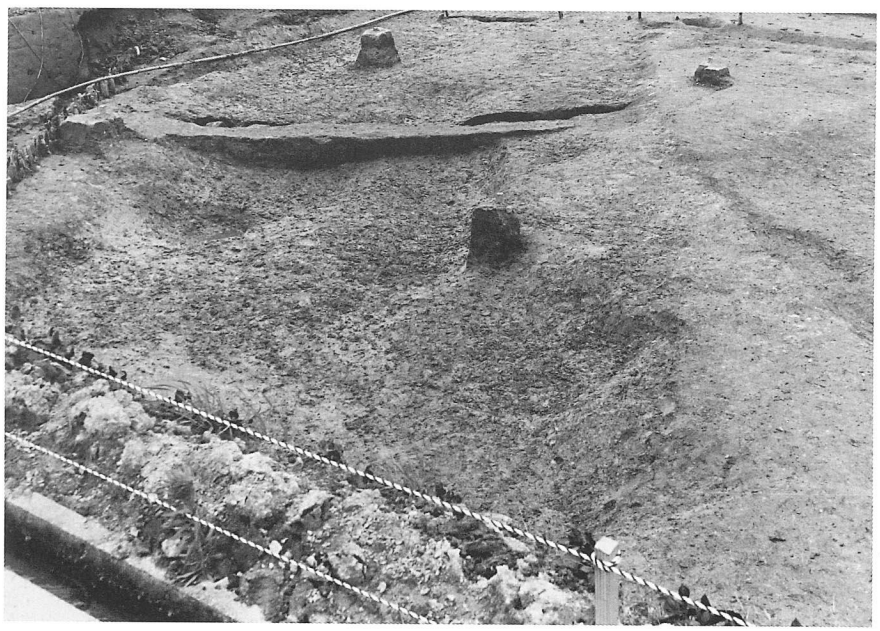
ＳＤ０３遺物出土状況２

ＳＤ０３遺物出土状況３

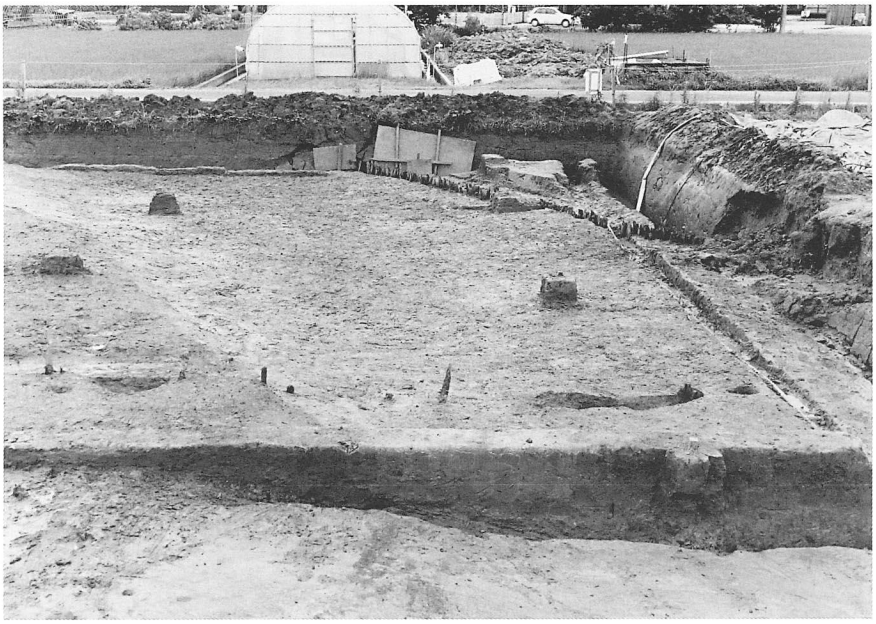
図版８

ＳＤ０３遺物出土状況４

ＳＤ０３完掘状況

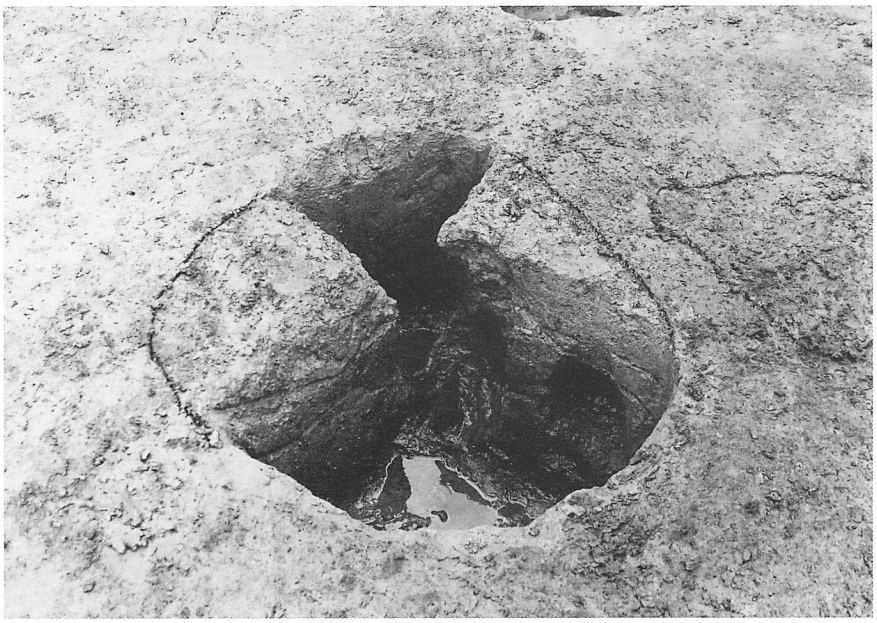


大溝０１



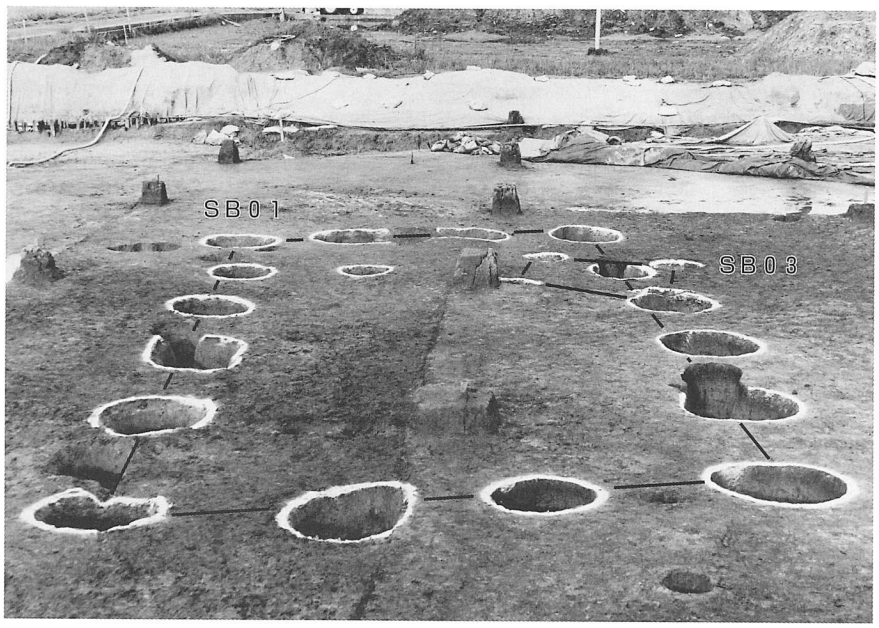
大溝０１完掘状況

調査風景

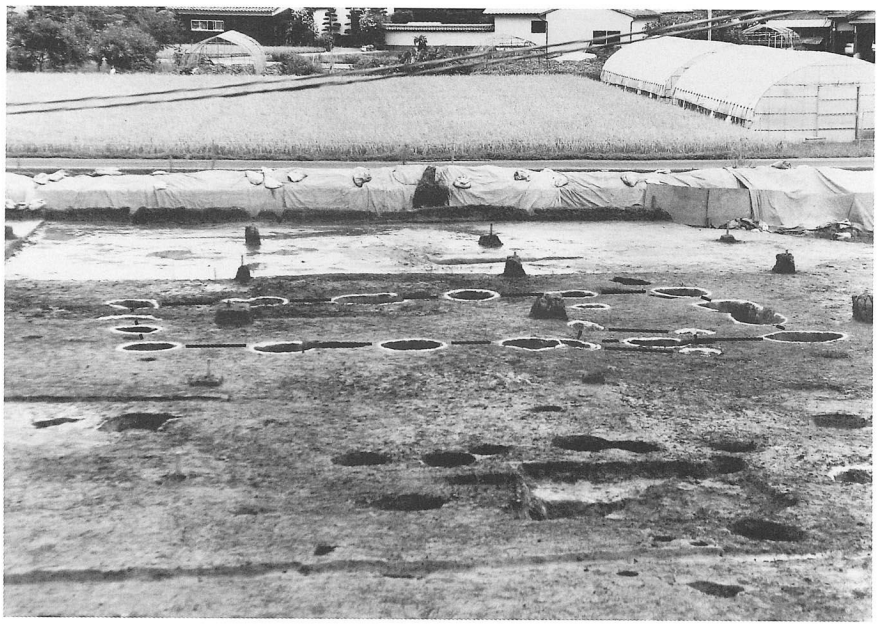


ＳＢ０１柱根出土状況

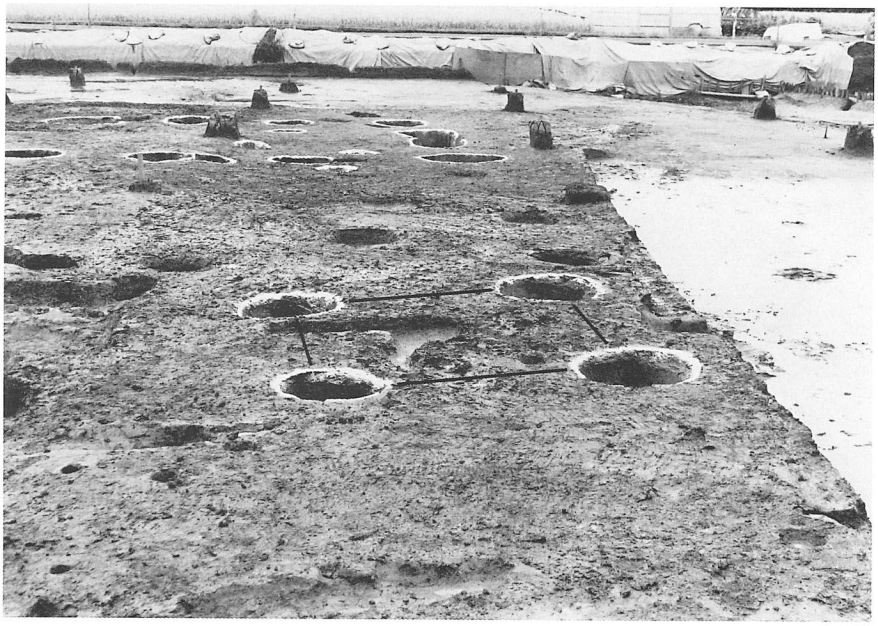
図版10



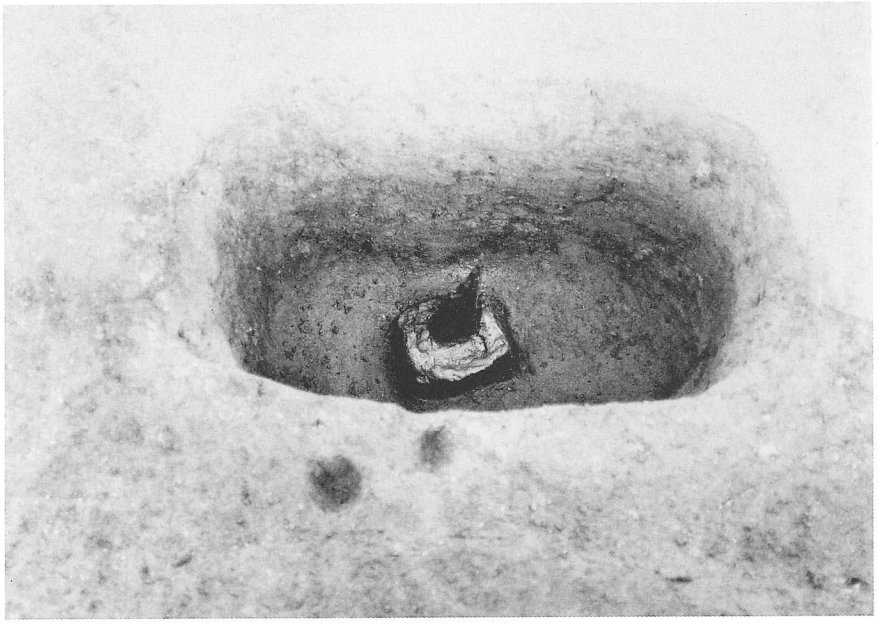
ＳＢ０１・ＳＢ０３完掘状況１



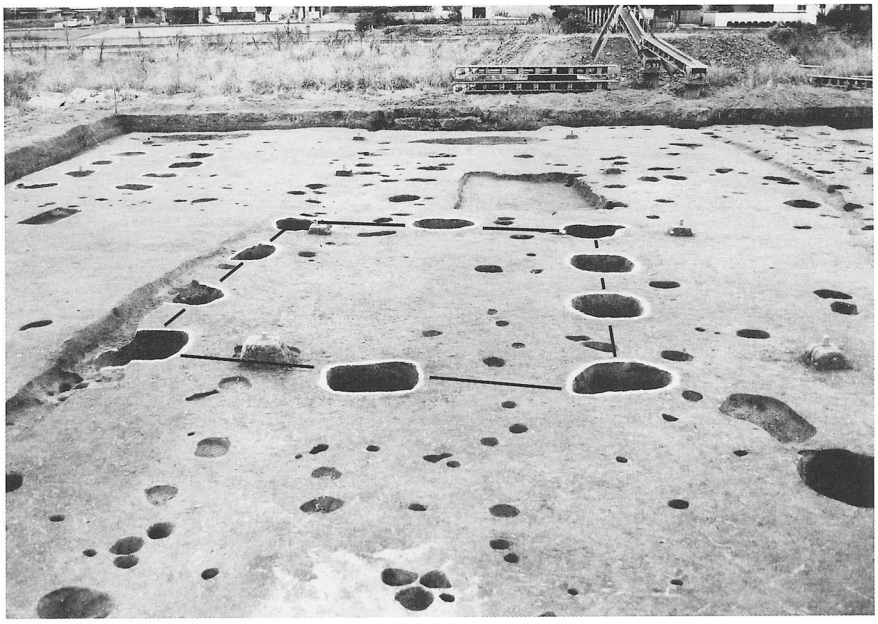
ＳＢ０１・ＳＢ０３完掘状況２



ＳＢ０２完掘状況



ＳＢ０４柱根出土状況

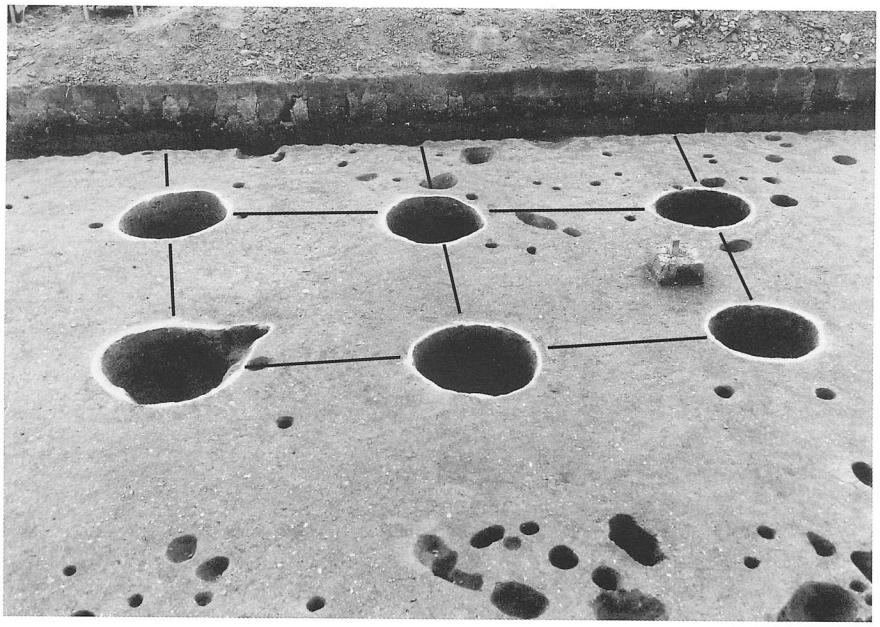


ＳＢ０４完掘状況１

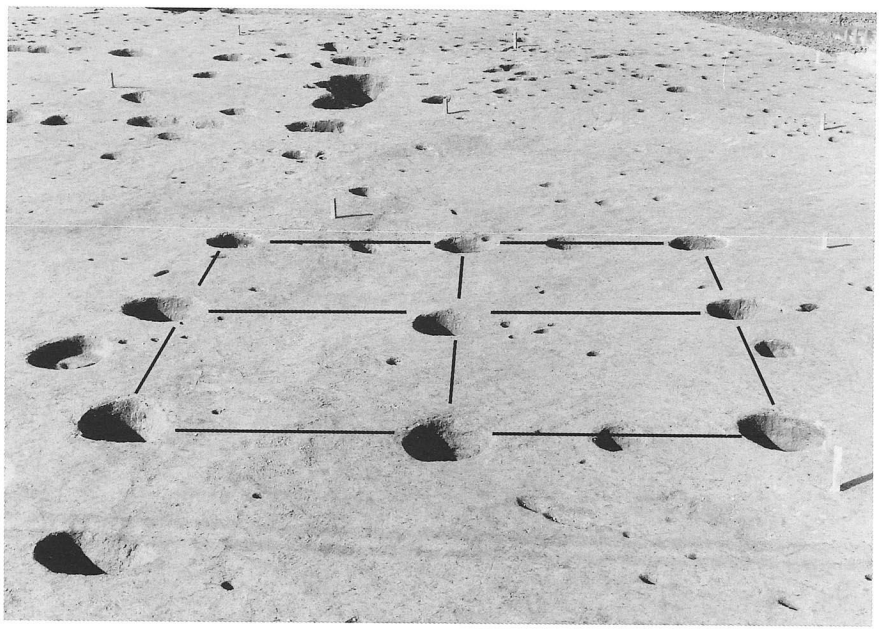
ＳＢ０４完掘状況２

図版12

ＳＢ０５完掘状況



ＳＢ０６完掘状況



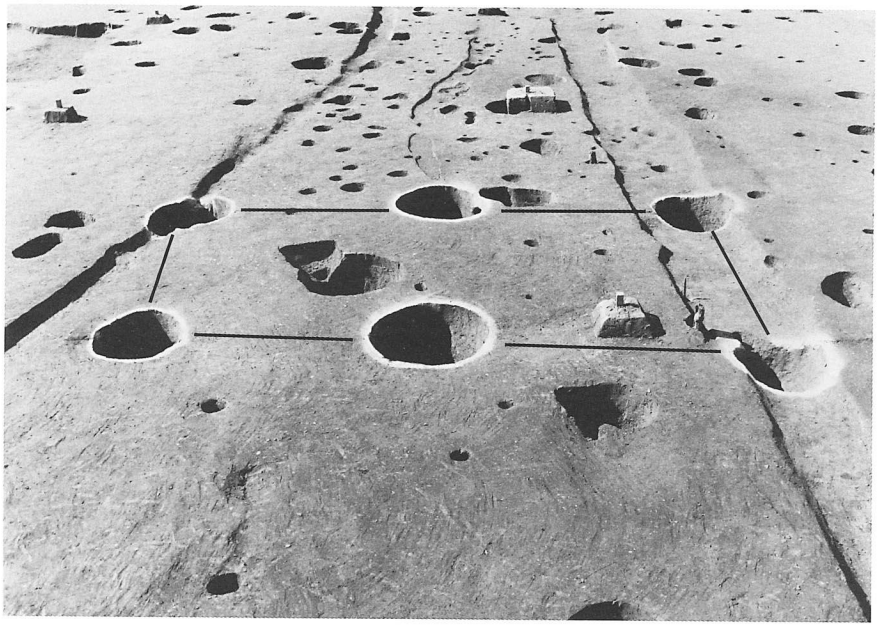
ＳＢ０７完掘状況

ＳＢ０８柱根出土状況

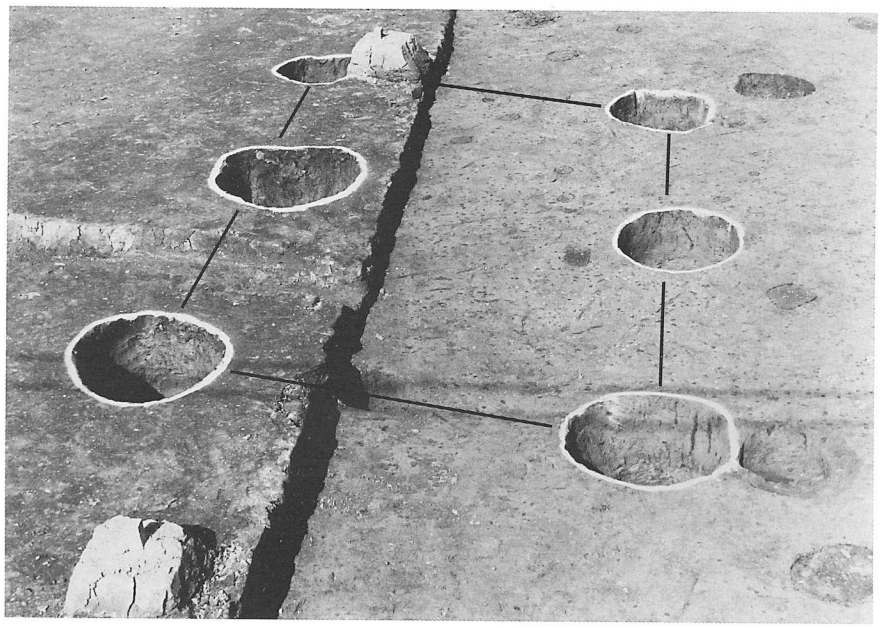
ＳＢ０８完掘状況

ＳＢ０９柱根出土状況

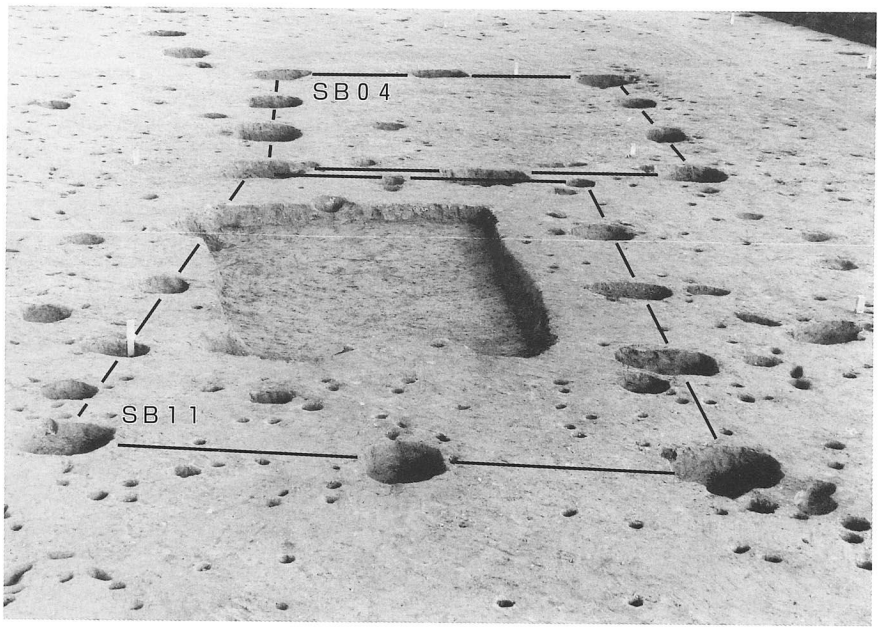
図版14



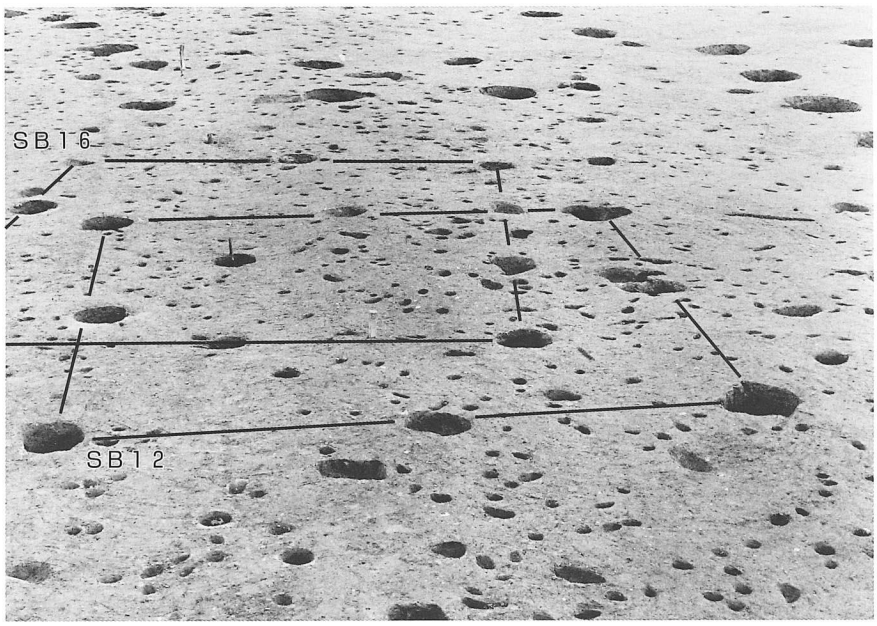
ＳＢ０９完掘状況



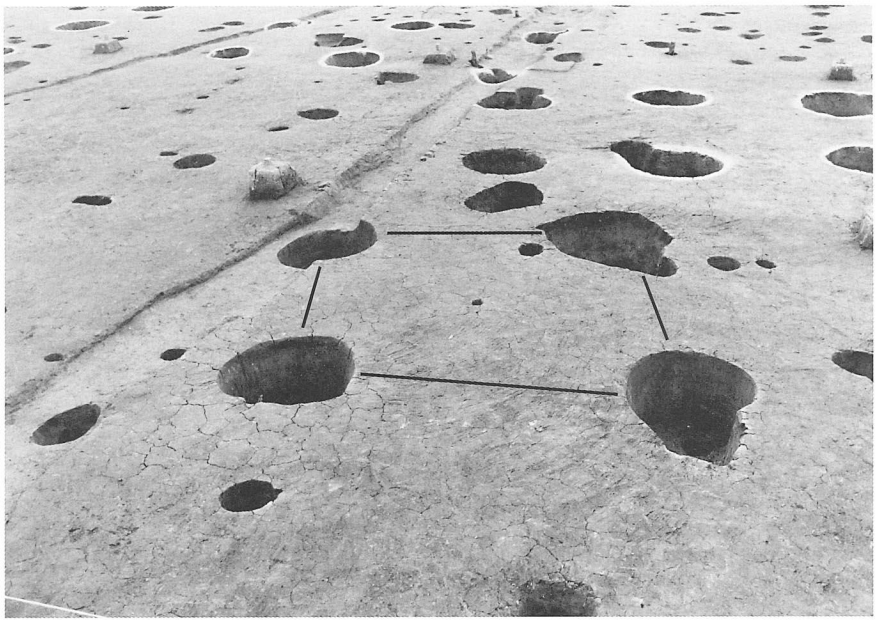
ＳＢ１０完掘状況



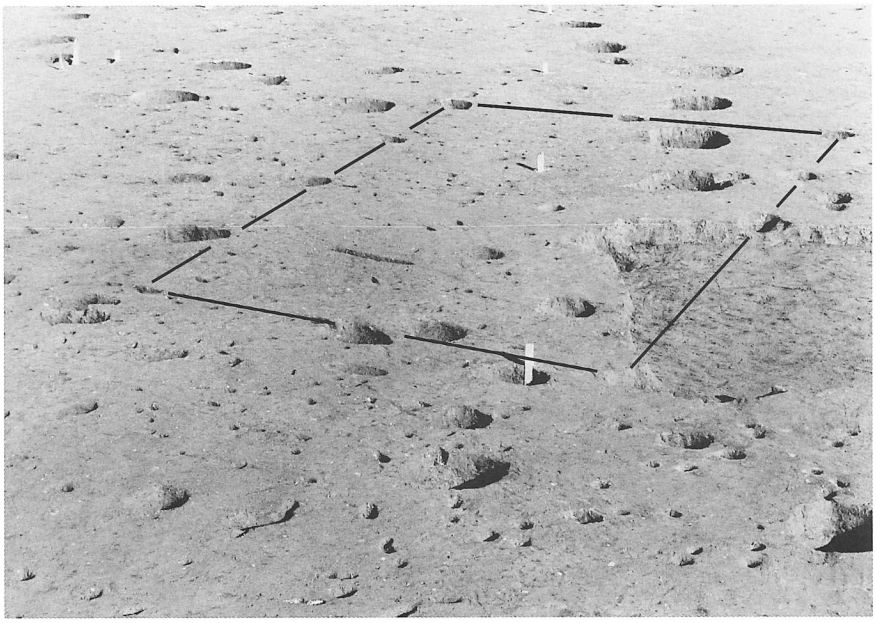
ＳＢ１１・ＳＢ０４完掘状況



ＳＢ１２・ＳＢ１６完掘状況

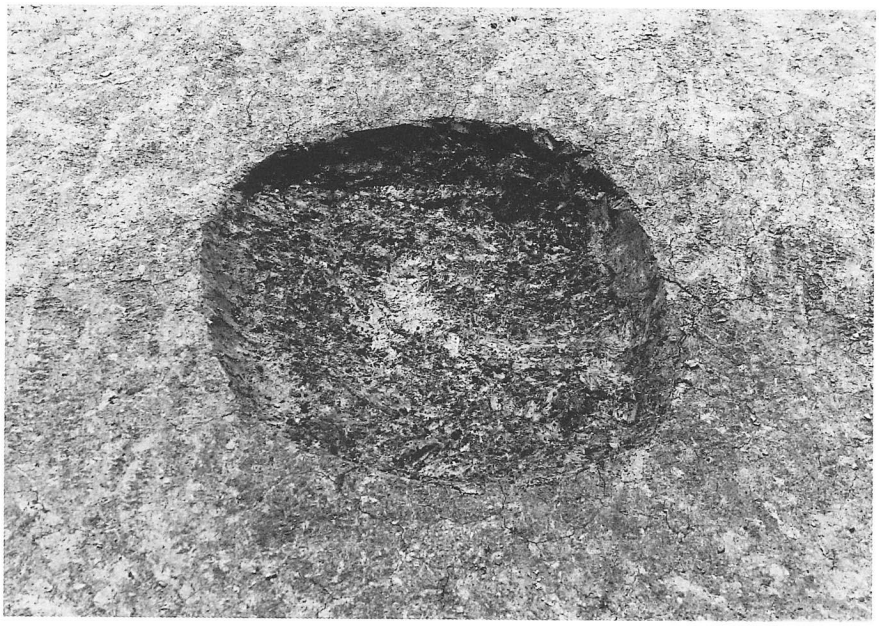


ＳＢ１３完掘状況

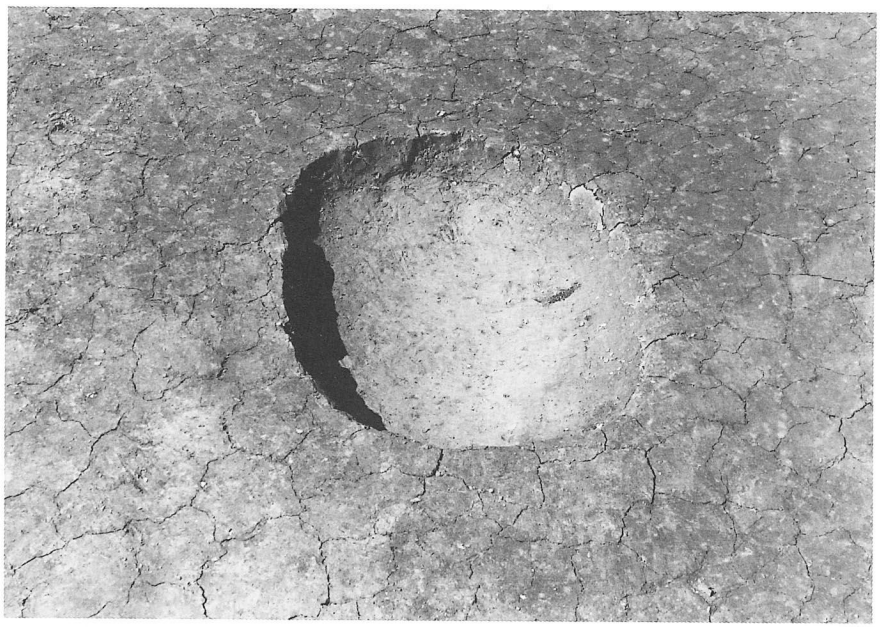


ＳＢ１４完掘状況

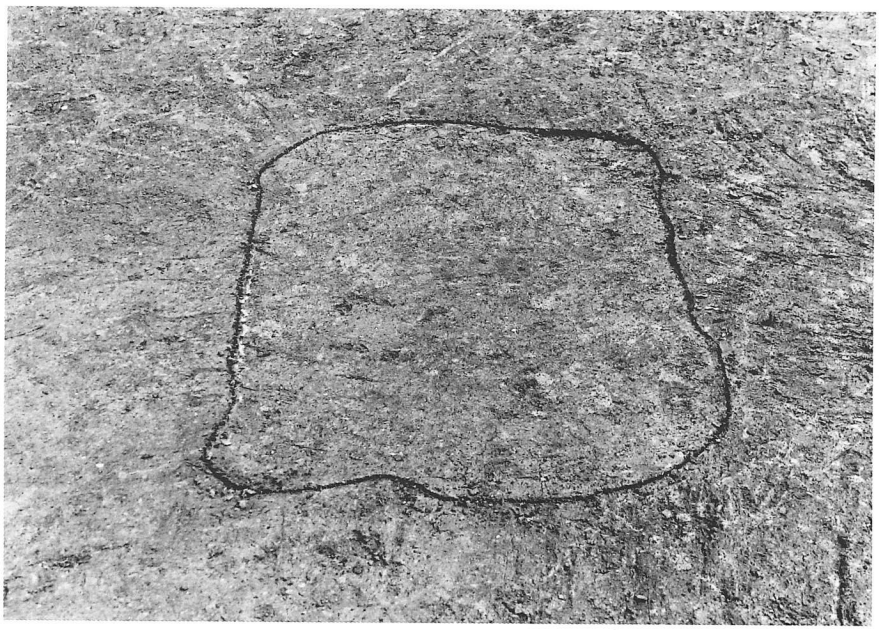
図版16



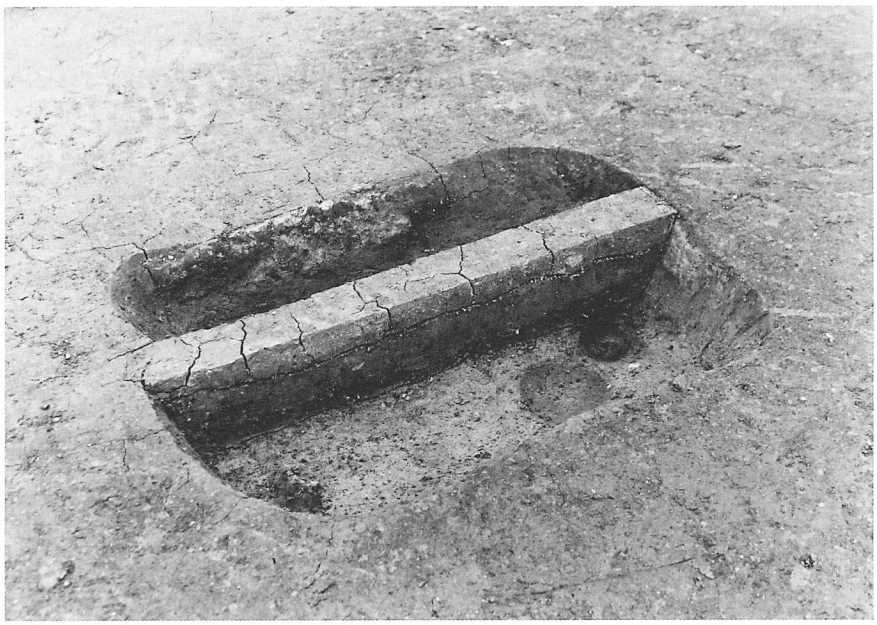
ＳＸ０１炭検出状況



ＳＸ０１完掘状況

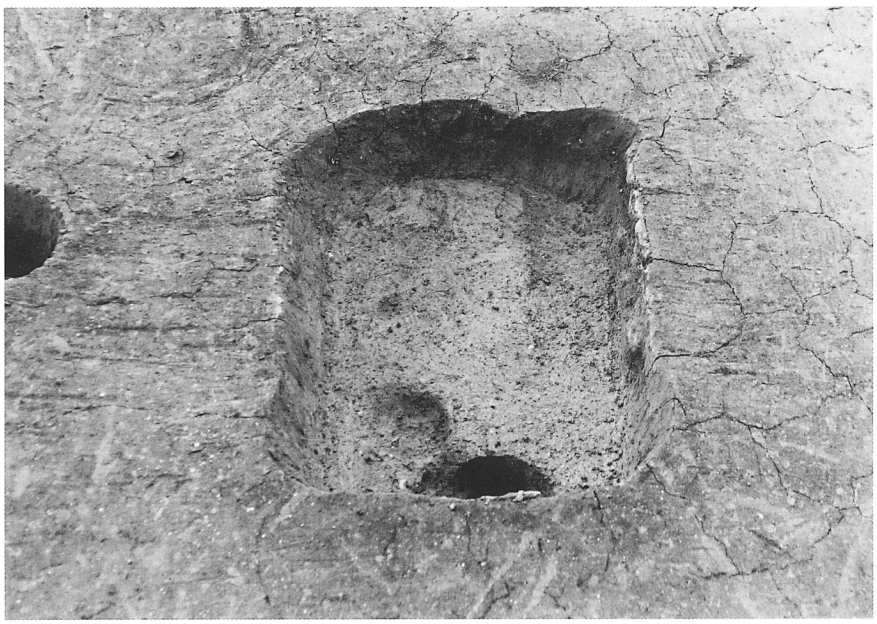


ＳＸ０２検出状況



ＳＸ０２土層堆積状況

ＳＸ０２焼土検出状況



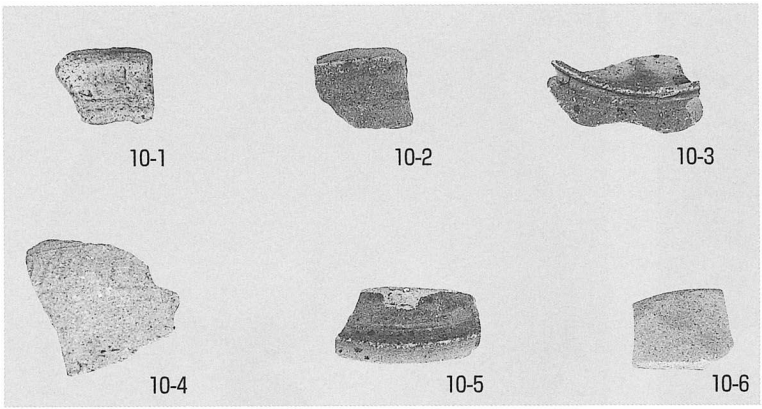
ＳＸ０２完掘状況

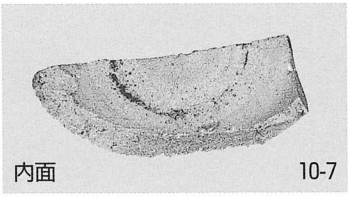
図版18

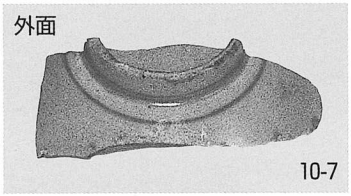
ＳＸ０３炭検出状況

ＳＸ０４遺物出土状況

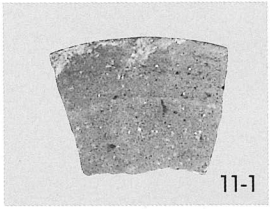
調査区西側遺構完掘状況

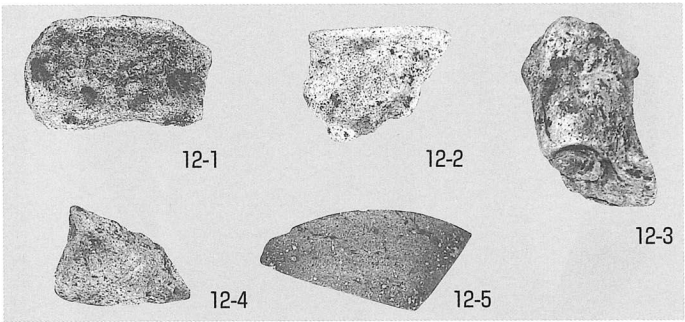


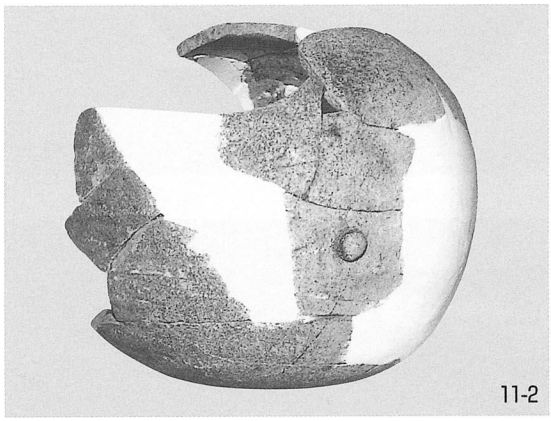




ＳＤ０２　出土遺物

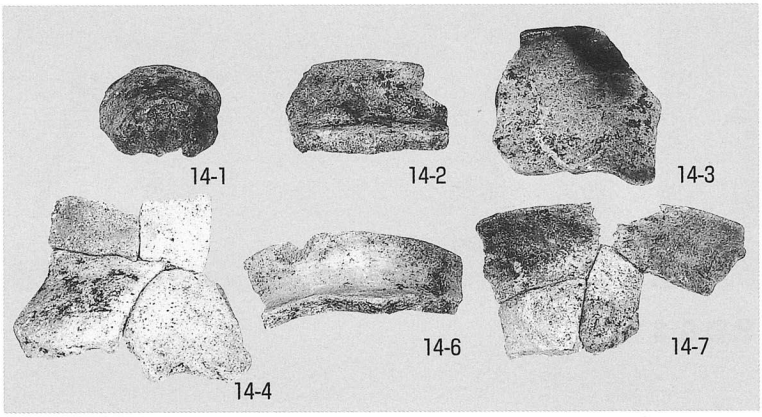


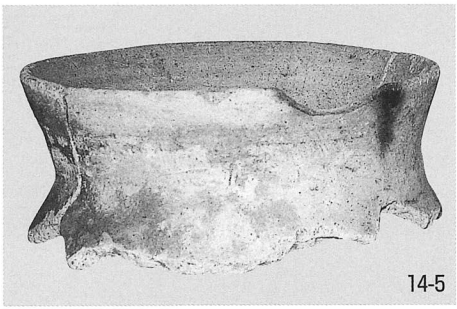




ＳＤ０１　出土遺物

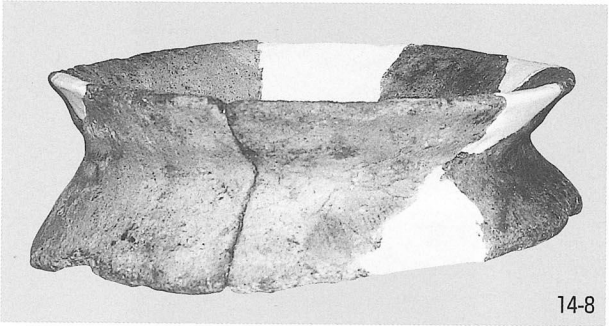
ＳＤ０６　出土遺物

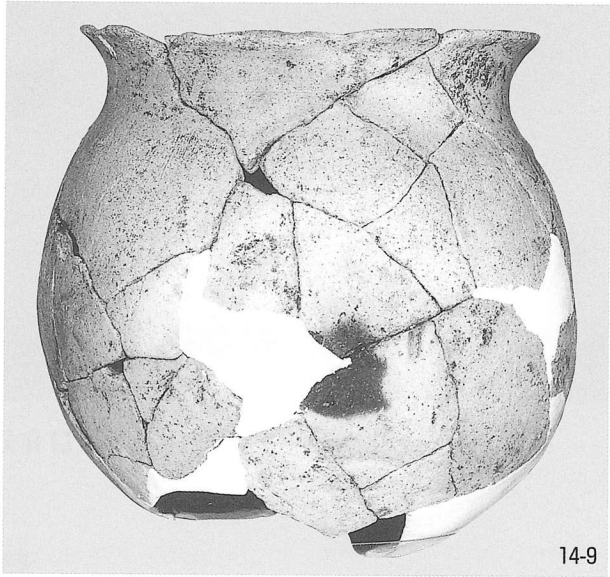


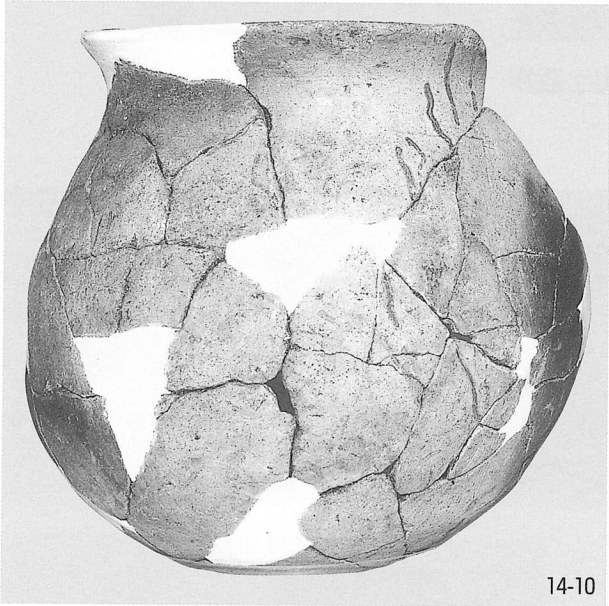


ＳＤ０３　出土遺物

図版20

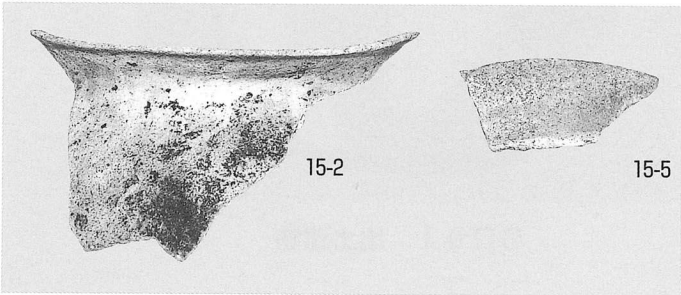

14-8


14-9

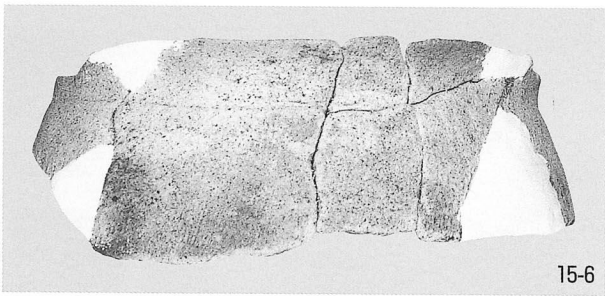

14-10

14-11

15-1

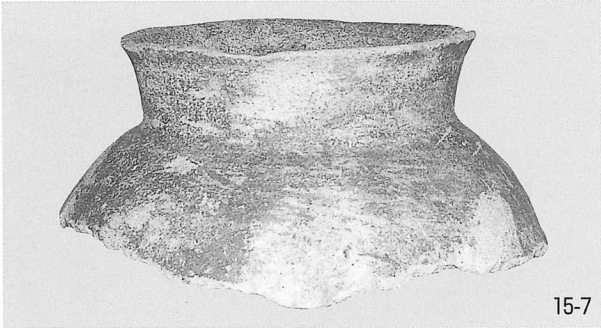

15-2 15-5

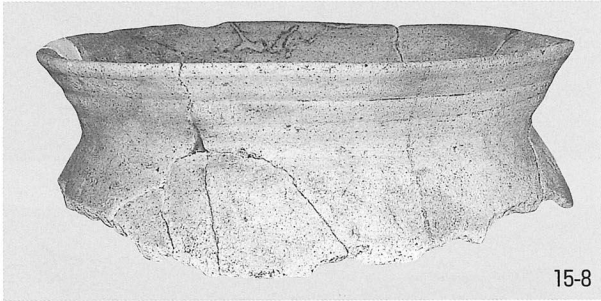
15-3


15-6

ＳＤ０３　出土遺物

15-4

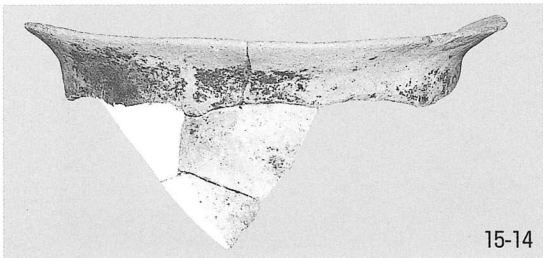

15-7

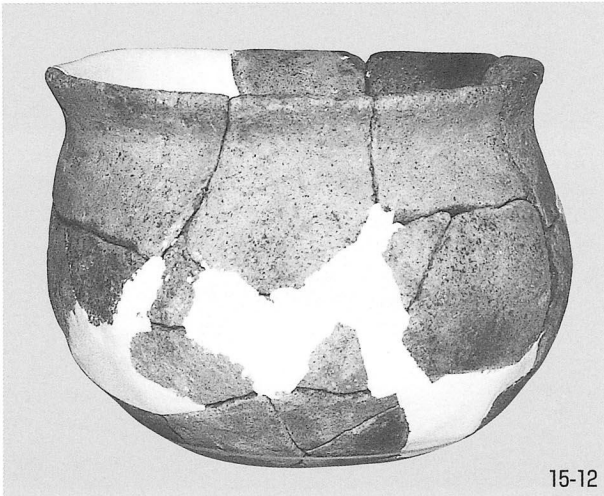

15-8

15-9

15-10

15-11

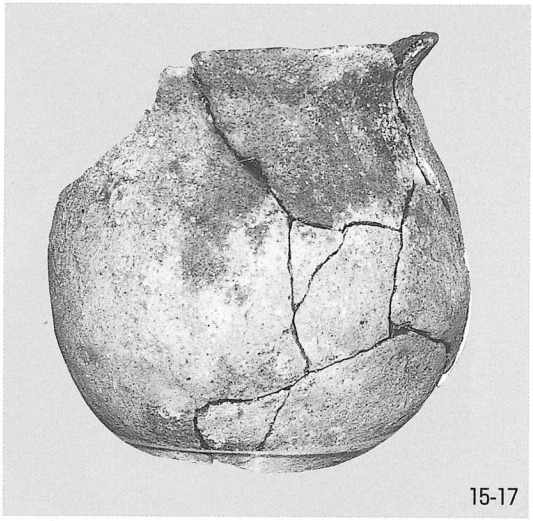

15-14

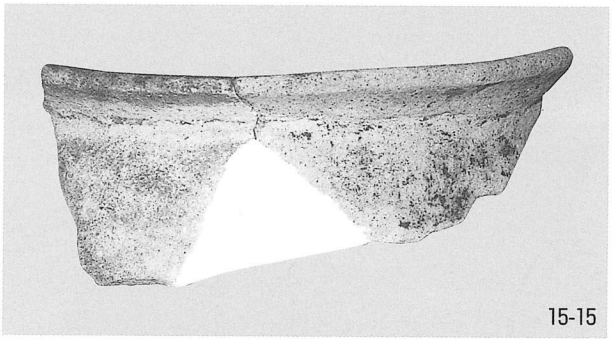

15-12

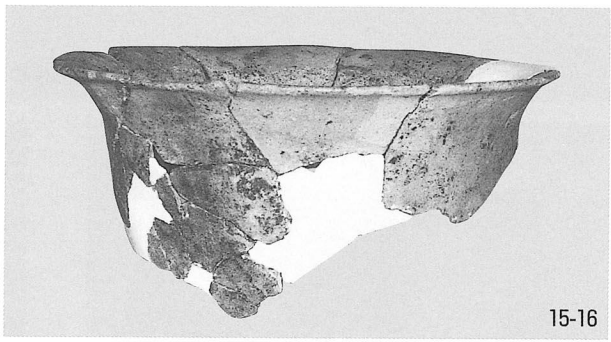
ＳＤ０３　出土遺物

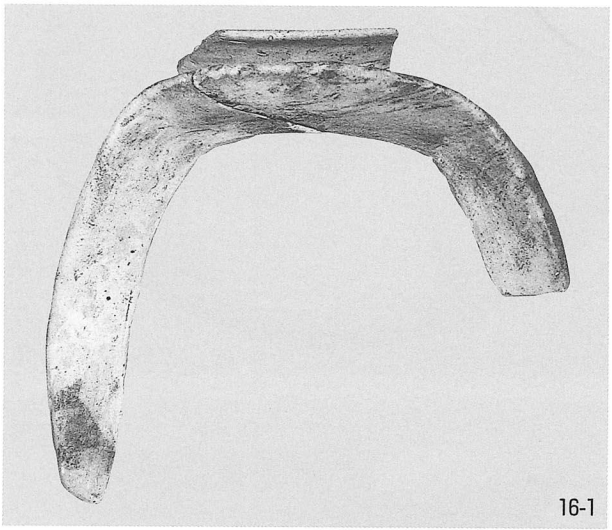
図版22

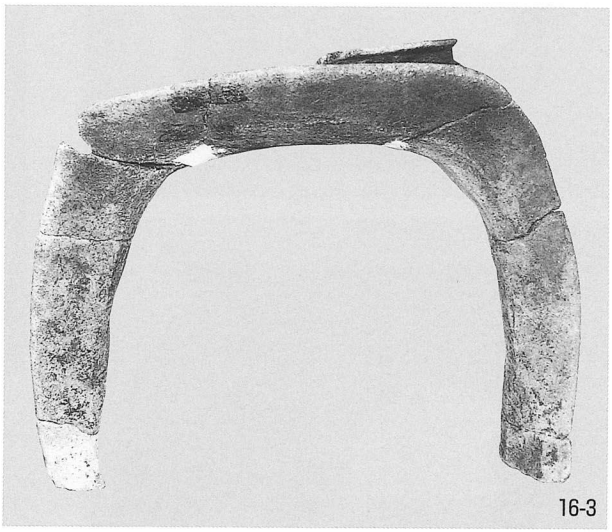
15-13

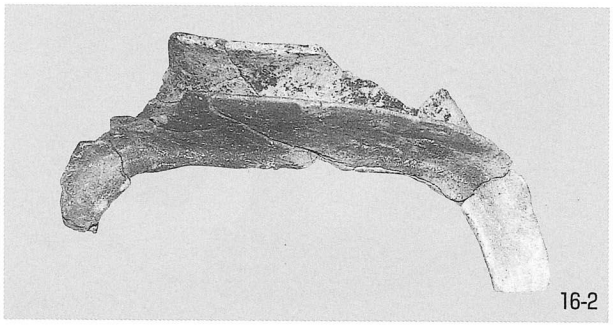

15-17

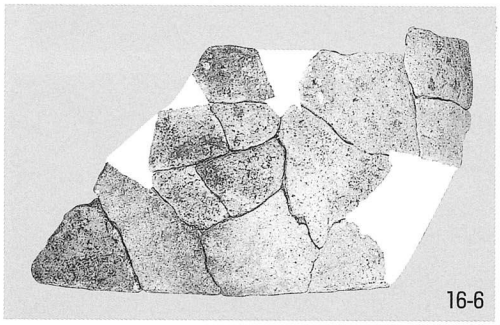

15-15


15-16

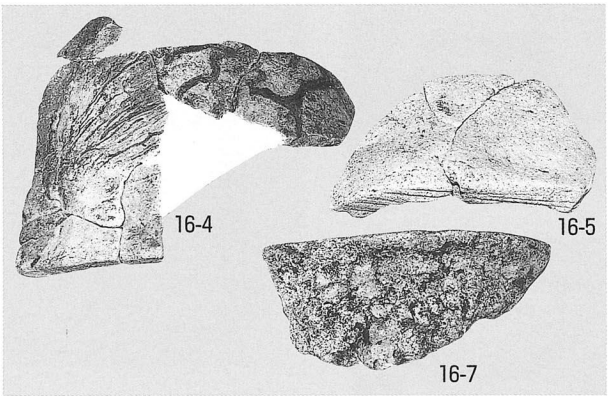

16-1

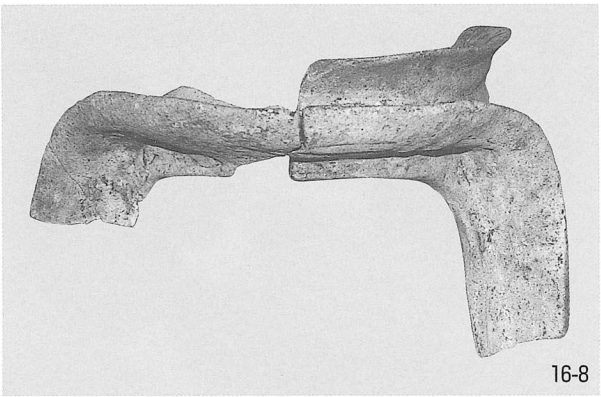

16-3

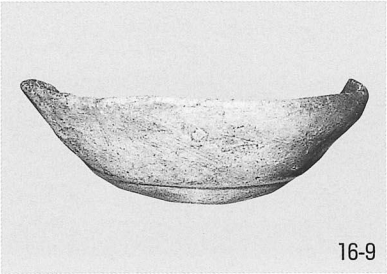

16-2

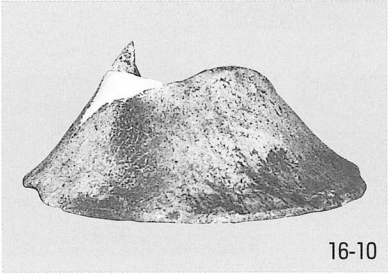

16-6

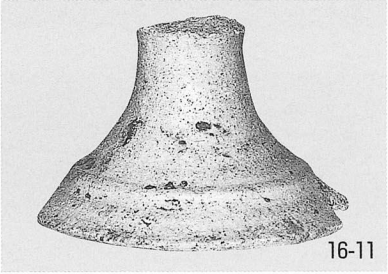
ＳＤ０３　出土遺物

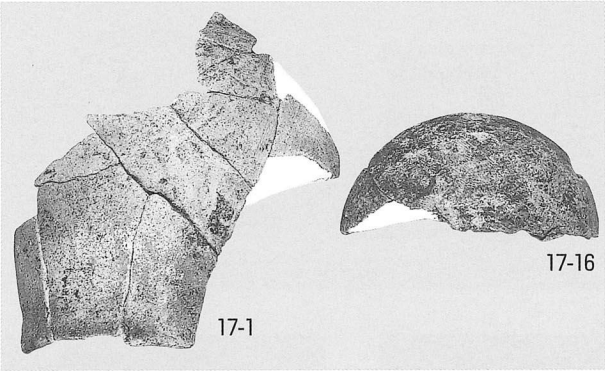








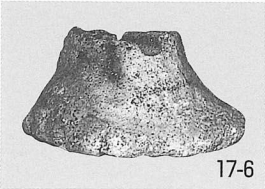


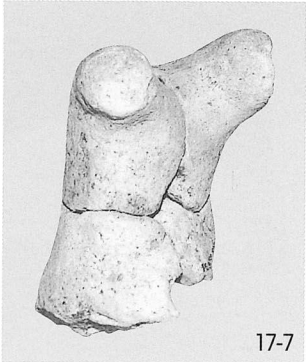


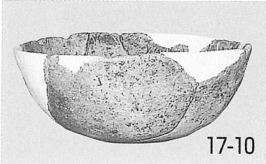
ＳＤ０３　出土遺物

図版24

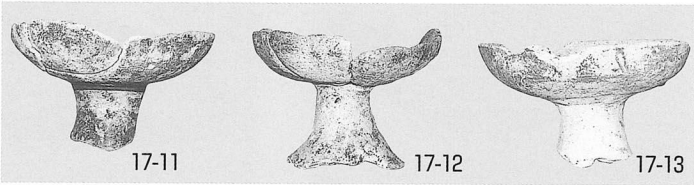
17-5


17-6

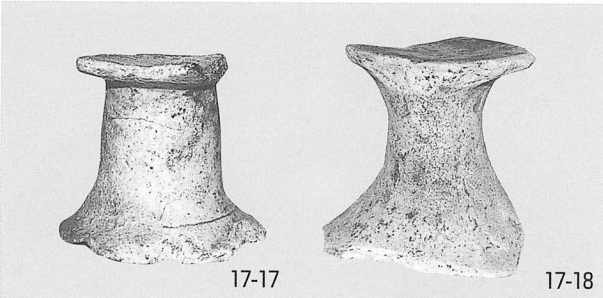

17-7

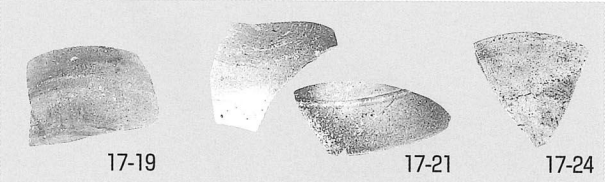

17-10

17-8 17-9


17-11 17-12 17-13

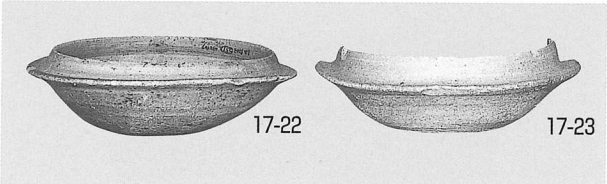
17-14 17-15

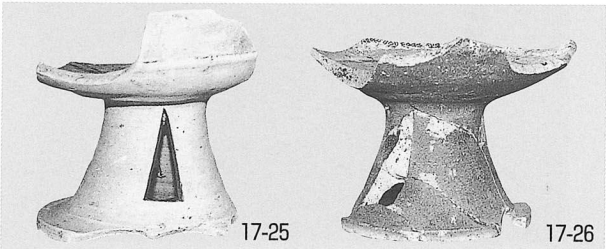

17-17 17-18

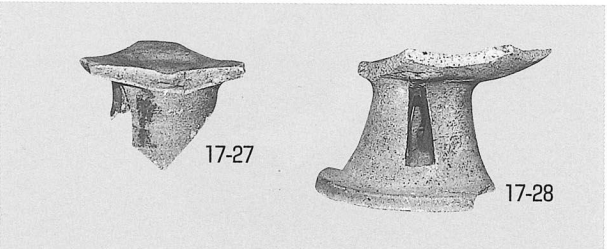

17-19 17-21 17-24

17-20

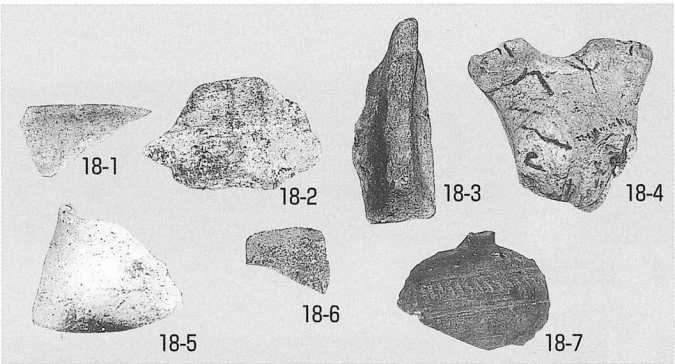
17-29


17-22 17-23


17-25 17-26

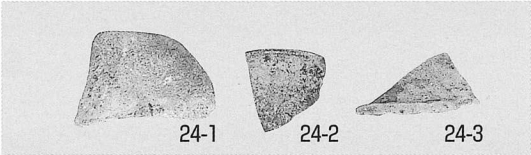

17-27 17-28

ＳＤ０３　出土遺物

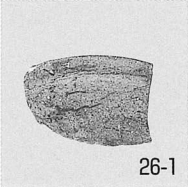


大溝０１　出土遺物

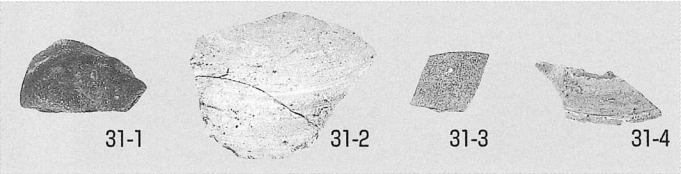
ＳＢ０１　出土遺物



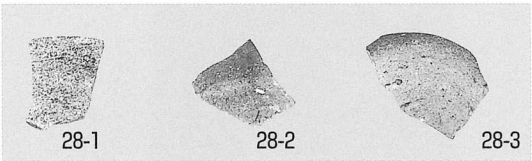
ＳＢ０４　出土遺物



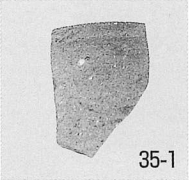
ＳＢ０５　出土遺物

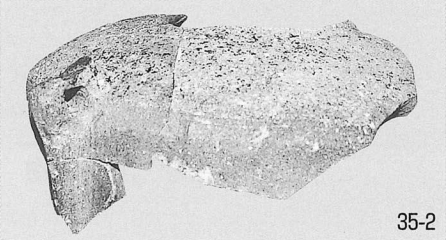


ＳＢ０８　出土遺物

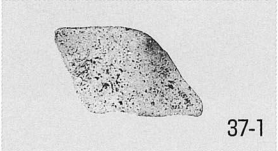


ＳＢ０６　出土遺物

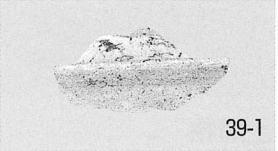




ＳＢ１１　出土遺物

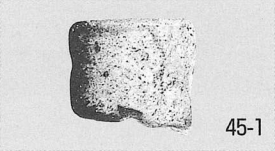


ＳＢ１２　出土遺物

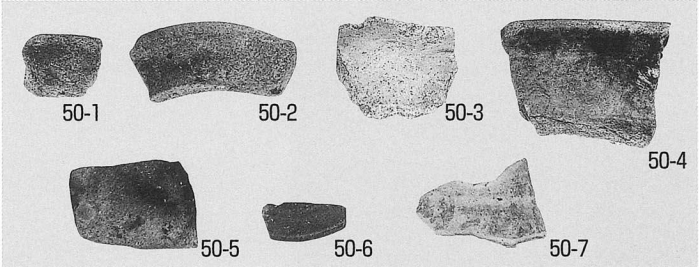


ＳＢ１３　出土遺物

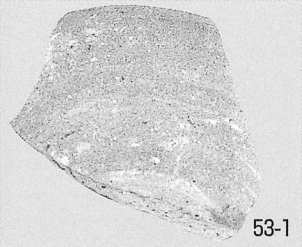
ＳＢ１５　出土遺物



ＳＡ０１　出土遺物

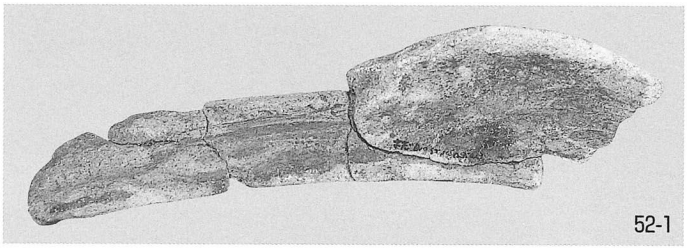


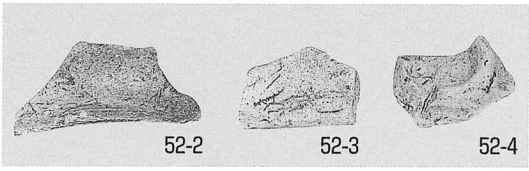
ＳＥ０１　出土遺物



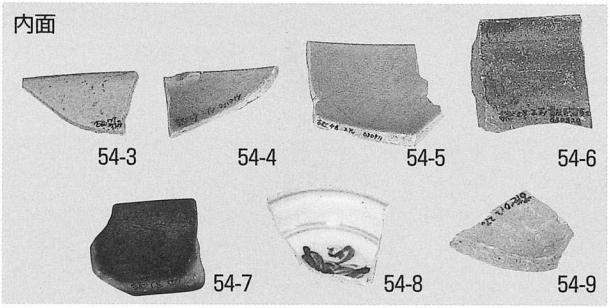
ＳＸ０５　出土遺物

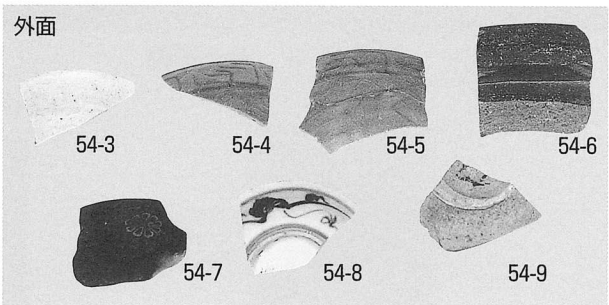
図版26

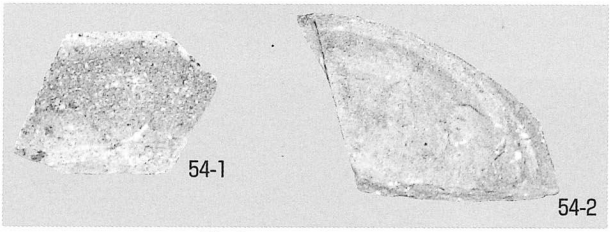




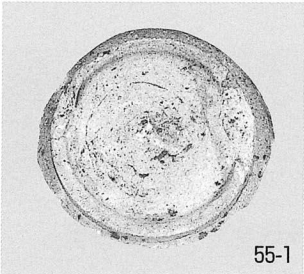
ＳＸ０４　出土遺物

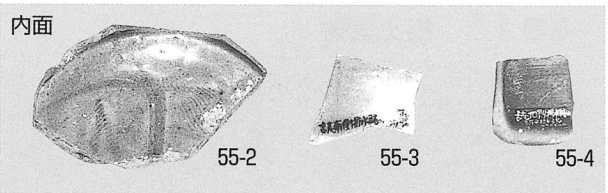


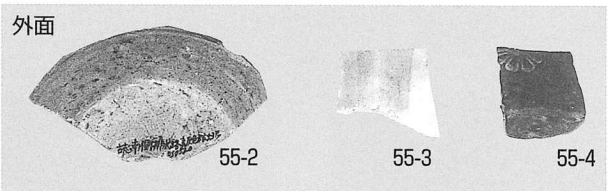




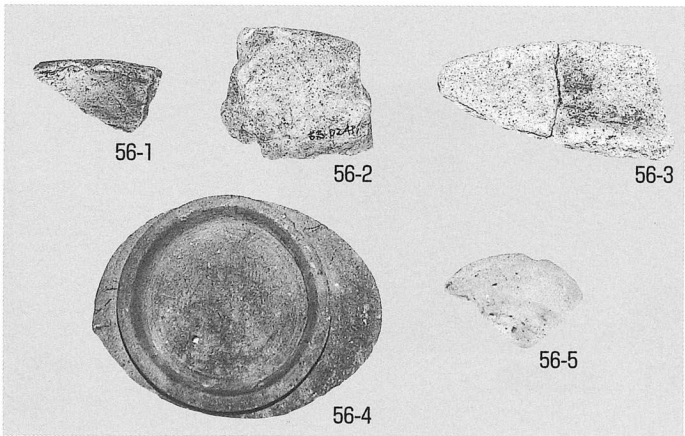
第②層　出土遺物







第③層　出土遺物



第④層　出土遺物